

学生の確保の見通しを記載した書類

目次

1. 新設組織の概要	2
(1) 新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）	2
(2) 新設組織の特色	2
2. 人材需要の社会的な動向等	2
(1) 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析	2
(2) 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析	3
(3) 新設組織の主な学生募集地域	5
(4) 既設組織の定員充足の状況	6
3. 学生確保の見通し	8
(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	8
1) 既設組織における取組とその目標	8
2) 新設組織における取組とその目標	9
3) 当該取組の実績の分析に基づく，新設組織での入学者の見込み数	10
(2) 競合校の状況分析	11
1) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性	11
2) 競合校の入学志願動向等	14
3) 新設組織において定員を充足できる根拠等	15
4) 学納金等の金額設定の理由	15
(3) 先行事例分析	17
(4) 学生確保に関するアンケート調査	17
(5) 人材需要に関するアンケート調査等	18
4. 新設組織の定員設定の理由	19

1. 新設組織の概要

(1) 新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
先進工学部	100	－	400	青森県八戸市大字妙字大開 88－1

(2) 新設組織の特色

新設組織は、既存の工学部工学科（5 コース）および感性デザイン学部感性デザイン学科において蓄積された工学・デザインの教育研究実績を基盤とする。文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」の採択を契機として、本学の基本理念である「工学×デザイン×地域」を高度に進化・深化させ、現代社会の緊要な課題である地球環境保護（グリーン分野）および社会効率化（デジタル分野）の発展を牽引する高度専門人材を育成することを目的とする。これら教育研究を強力に推進すべく、既存の 2 学部を再編・融合し、新たに「総合情報学部」「先進工学部」「デザイン工学部の 3 学部」を設置するものである。

先進工学部は、工学の基礎学識と最先端のグリーン技術を基盤とし、持続可能な社会の実現に寄与する「環境エネルギー科学」「生物資源科学」「ロボット工学」「モビリティ工学」「機械工学」「電気電子通信工学」の 6 つのプログラムを展開する。現代の工学教育において喫緊の課題となっている環境負荷低減を実現すべく、数学・自然科学の基礎に加え、「グリーン IT」や「グリーンデバイス」等の次世代環境技術に関する専門知識を教授する。さらに、情報リテラシーおよびデザイン思考（人間中心の課題解決手法）を修得させることで、地球環境の保全と社会生活の発展を両立させ、次世代の産業界を牽引する高度専門技術者を育成する。

名称：先進工学部

学位：学士（工学），学位の分野：工学

【既存組織】

名称：工学部工学科，入学定員：250 名，収容定員 1,000 名

名称：感性デザイン学部感性デザイン学科，入学定員：50 名，収容定員：200 名

所在地の概要：青森県八戸市大字妙字大開 88-1

新組織開設後の予定：学生募集停止

2. 人材需要の社会的な動向等

(1) 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

現代社会は、第 4 次産業革命の進展と脱炭素化という二大潮流（DX および GX）の中にあり、これまでの産業構造を抜本的に変革することが不可欠となっている。国が掲げる「経済財政運営と改革の基本方針」においても、成長分野を牽引する専門人材の不足が指摘され

ており、高等教育機関に対しては、単なる知識の伝達に留まらず、社会課題を具体的に解決し得る実務能力を備えた人材を世に送り出すことが強く期待されている。

全国的な動向として、「2050 年カーボンニュートラル」の実現に向け、再生可能エネルギーや次世代モビリティ、生物資源の高度利用を担うエンジニアは、社会インフラを再構築する基幹人材として定義されている。特に、既存の機械・電気工学の知見に最新のグリーン技術を掛け合わせ、持続可能な産業構造を「維持保全」かつ「創出」できる技術者には、社会全体から大きな期待が寄せられている。

また、北東北を中心とした地域的要請においても、青森県を中心とする国内有数のエネルギー供給拠点（風力、太陽光、バイオマス等）においては、これら地域資源を最大限に活用し、環境保全と経済発展を両立させる技術革新が不可欠である。一次産業と工学技術の融合や、寒冷地におけるエネルギー効率化など、地域特有の課題に即した高度な専門性と地域貢献への意欲を併せ持つエンジニアの輩出は、自治体や関連産業から極めて強く要望されている。

先進工学部は、これら全国的・地域的な人材需要の動向に正面から応えるものである。環境エネルギー、生物資源、モビリティといった北東北の基幹産業に直結した専門教育を通じ、高度な専門知識と実践的な課題解決能力を兼ね備えた人材を社会へと繋ぐことは、本学に課せられた極めて重要な社会的使命であると認識している。

(2) 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

・全国的な 18 歳人口の推移と進学動向

文部科学省の試算においても、2040 年における大学進学該当年齢人口の大幅な減少は「2040 年問題」として定義されており、高等教育機関には規模の適正化と教育の質的転換が厳格に求められている。

・地域的な 18 歳人口の急減と進学率の推移

【資料 1】「リクルート進学総研 マーケットリポート 2025（東北版）」に基づき、本学の主要な学生募集圏における入学対象人口の動向を分析する。

東北エリアおよび青森県における 18 歳人口の減少は、全国平均を大きく上回る速度で進行している。本学が所在する青森県の 18 歳人口は、2025 年の 10,307 人から 2037 年には 7,647 人へと、25.8% (2,660 人) の減少が予測されている。これは全国平均の減少率 16.8% を 9 ポイント上回る極めて深刻な推移である。東北エリア全体においても同期間に 25.3% の減少が見込まれており、地域的な入学対象人口の総数が大幅に収縮している状況は不可避である。

・大学進学志向の変容とニーズの分析

18 歳人口が減少する一方で、青森県内における大学進学志向は過去 10 年で顕著な伸長を見せており、これが本改組における志願者確保の蓋然性を裏付けている。

青森県の現役大学進学率は、2016 年の 36.3%から 2025 年には 48.5%へと、12.2 ポイントの大幅な上昇を記録した。これは東北平均 (47.5%) を上回る数値であり、地域における

高等教育への期待と需要が極めて高いことを示唆している。また、短期大学への進学率が同期間で 5.4%から 3.6%へ低下している事実を鑑みれば、受験生のニーズがより高度かつ専門的な 4 年制大学教育へと明確に移行していることが読み取れる。

・改組による入学者確保の戦略的必然性

東北エリア全体の大学地元残留率は 2025 年で 35.8%（2016 年比 1.7 ポイント増）、青森県は 39.6%（2016 年比 2.3 ポイント増）のと微増傾向にあるものの、依然として若年層の広域流出は本地域の重要課題である。特に、製造業・エネルギー産業が基幹となる本地域において、次世代の産業構造を支える「GX（グリーントランスフォーメーション）」等を専門的に学べる高等教育機関の不足が、理工系優秀層の圏外流出を招く主因となっている。

大学進学志向が高まる現在、本学が「デジタル（総合情報学部）」「グリーン（先進工学部）」「デザイン（デザイン工学部）」という、現代社会の要請に直結した付加価値の高い教育課程へ再編することは、県外流出層を抑止し、地域内に高度専門人材を留めるための極めて有効な施策である。

本改組における「先進工学部」は、従来の学問境界を超えた「環境エネルギー科学」「生物資源科学」「ロボット工学」「モビリティ工学」「機械工学」「電気電子通信工学」の 6 プログラムを柱として構成される。カーボンニュートラル社会の実現に不可欠な「環境・バイオ（グリーン）」と、次世代産業を牽引する「モビリティ・ロボット・電子情報（先端メカトロニクス）」を一つの学部内に共存させることで、従来の工学志望層に加え、SDGs や社会課題解決を強く意識する層の獲得を狙う。また、青森県が注力する再生可能エネルギーやスマート農業、自動運転技術といった地域課題に対し、「環境・生物資源」と「機械・ロボット・電気電子」を横断的に学べる環境を提示することは、理工系優秀層の圏外流出を抑止する上で極めて強力な訴求力を持つ。

18 歳人口の減少という外部環境の厳しさは存在するものの、「大学進学率の継続的な上昇」と「4 年制大学志向への深化」がそれを補完する形で進展しており、本改組によって社会ニーズに合致した専門領域を提示することで、拡大する進学需要を確実に取り込み、中長期的な入学者確保を実現することは十分に可能である。

・専門領域の拡大による新規受験層の開拓

従来の工学志望層が主眼とする「機械工学」「電気電子通信工学」を基盤としつつ、新時代を象徴するプログラム群を配することで、志願者層を以下のように拡大する。

「環境エネルギー科学」「生物資源科学」：理学・生命科学志向の受験生、および環境保全や持続可能な一次産業（スマート農林水産業）に関心を持つ新たな層を開拓する。

「ロボット工学」「モビリティ工学」：AI や自動運転、宇宙開発など、未来のテクノロジーに対する関心が高い層を強力に惹きつける。

このように、伝統的な工学から先端領域までを網羅した 6 プログラムを体系化することで、志願者の選択肢を飛躍的に広げ、18 歳人口減少下においても安定的な志願者数を確保する。

・リカレント教育および社会人需要の創出

地域産業界の変革に伴い、以下の需要を取り込む。

エネルギー・素材関連：カーボンニュートラル対応を迫られる電力・化学系企業からの「環境エネルギー科学」「生物資源科学」への学び直し需要。

製造・運輸関連：自動化・電動化シフトへの対応を急ぐ製造業からの「ロボット工学」「モビリティ工学」へのリスクリング需要。

これら 6 プログラムが網羅する専門性は、地場企業の技術革新（GX/DX）に直結しており、社会人編入や企業派遣等の枠組みを通じて、18 歳人口に依存しない強固な入学基盤を構築する。

***添付データ：【資料 1】「リクルート進学総研 マーケットレポート 2025（東北版）」**

(3) 新設組織の主な学生募集地域

【資料 2】（別紙 1）に示す通り、青森県内における私立大学全体の 2025（令和 7）年度入学者（出身高校所在地別）の構成比を見ると、青森県内出身者が 83.0%と大半を占め、次いで岩手県（6.9%）、秋田県（5.0%）の順となっている。これに対し、本学の同年次入学者（215 名）は、青森県内出身者が 78.14%（168 名）である一方、岩手県が 13.02%（28 名）、秋田県が 2.79%（6 名）となっている。東北 6 県出身者の合計は 96.74%に達し、特に北東北 3 県（青森・岩手・秋田）で 93.90%を占めているのが特徴である。

本学の入学者実績を詳査すると、岩手県出身者が県内私大平均（6.9%）の約 1.9 倍にあたる 13.02%を占めており、地理的近接性や本学の教育資源に対する近隣県のニーズを背景として、県外からも安定的な入学者を確保している。

本学の主たる募集地域である北東北 3 県は、全国的にも人口減少と若年層の流出が喫緊の課題となっている。このような状況下において、本学の入学者構成が北東北 3 県で約 94%を占めている事実は、本学が地域における「高等教育の受け皿」としてのみならず、「地域人材の還流・定着」を担うハブとして機能していることを示している。

以上のデータから、本学は県内他大学と比較して岩手県等からの流入が顕著であり、北東北 3 県を中心とした広域的な募集基盤を有しているといえる。したがって、新設組織においても北東北 3 県を主たる学生募集地域として設定することは、過去の実績に照らして十分な妥当性がある。

本改組においては、この強固な募集基盤を礎とし、地域産業界や自治体との連携をさらに強化する。具体的には、地域課題を教育リソースとして活用する実践的なカリキュラムを通じて、高度な専門性と地域愛を兼ね備えた人材を育成する。

育成された人材を再び北東北の産業界へ輩出する「人材育成と供給」のサイクルを確立することは、停滞する地域活性化への直接的な寄与となり、ひいては地方私立大学としての不可欠な地域貢献を果たすものである。以上の観点から、本学が北東北 3 県を主たる募集地域として設定し、教育組織を改組することは、地域社会の持続可能性を担保する上で極めて高い妥当性と必要性を有している。

・添付データ：【資料 2】新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）

(4) 既設組織の定員充足の状況

【資料 3】（別紙 2 の 1）に示す通り、大学全体の収容定員 1,200 名に対し、在籍学生数は 818 名、充足率は 0.68（68%）に留まっている。この数値は、既存の「伝統的工学」および「感性デザイン」という枠組みが、現在の学生ニーズや社会情勢と乖離し、学生の定着および確保において課題を抱えていることを示唆している。

＊添付データ：【資料 3】既設学科等の収容定員の充足状況（別紙 2 の 1）

1) 工学部工学科の入学定員の充足率の状況（直近 5 年間）

【資料 3】（別紙 2 の 2-1）に示す通り、令和 3 年度には定員を上回る充足（1.04）を記録していたが、令和 5 年度（0.66）、令和 6 年度（0.60）と急激な低下を見せている。直近の令和 7 年度は 0.73 まで回復しているものの、5 ヶ年平均充足率は 0.79（79%）に留まっており、定員 250 名の維持が困難な状況であることが客観的な数値からも明らかである。

① 入試区分別の入学動向と課題

・総合型選抜（平均入学者：81 名 / 募集人員：49 名）

募集人員を大幅に上回る入学者を恒常的に確保しており、本学を第一志望とする層の受け皿として機能している。しかし、令和 3 年度（104 名）から令和 5 年度（57 名）にかけては一時的に半数近くまで減少しており、年内入試層においても市場の影響を強く受けている。

・学校推薦型選抜（平均入学者：65 名 / 募集人員：67 名）

概ね募集人員に見合った入学者を安定して確保できている区分である。辞退者が極めて少なく、歩留まりが非常に高い点が特徴である。

・一般選抜および共通テスト利用入試（課題となる区分）

最も深刻な課題は年明け以降の選抜である。一般選抜は、令和 3 年度の 25 名から令和 6 年度には 6 名まで激減した（平均 17 名）。共通テスト利用入試は、令和 3 年度の 64 名から令和 6 年度以降は 20 名台（平均 35 名）まで低下している。

これらの区分は募集人員（一般 58 名、共テ 76 名）に対し充足率が著しく低い事実は、他大学との併願者が多い層において「本学を選ぶ理由」が弱まり、定員 250 名を充足させるための牽引力となっていないことを示している。

② 分析のまとめと改組の妥当性

過去 5 年間のデータは、既存の工学部（定員 250 名）という規模が、現在の志願動向や併願状況に対して過大であることを示唆している。特に、広範な工学領域を一括して募集する形態では、受験生の専門分化するニーズ（何を専門に学べるか）に十分応えきれず、一般選抜・共通テスト利用入試による「後期の積み上げ」が困難になっている点が、全体の充足率を押し下げる構造的な要因となっている。

この現状を打破し、地域を支える基幹学部として安定的な入学者確保を実現するためには、以下の施策が不可欠である。

・定員の適正化

従来の 250 名の枠組みを解体し、社会的な技術変革（GX・DX）に即応した「先進工学部（100 名）」へ再編・スリム化を行う。定員を 100 名に集約することで、志願倍率の適正化を確実に図るとともに、環境エネルギーやロボティクスといった特定分野に強い意欲を持つ志願者を高密度に確保できる体制へと刷新する。

・募集力の再構築

総合型・推薦型選抜で評価されている「第一志望層」のニーズにより深く合致するよう、「環境エネルギー科学」「生物資源科学」「ロボット工学」「モビリティ工学」「機械工学」「電気電子通信工学」の 6 プログラムを明確化する。

これにより、従来の工学全般という曖昧な訴求から脱却し、「次世代モビリティを開発したい」「脱炭素社会に貢献したい」といった具体的な目的意識を持つ層に対し、一般選抜においても圧倒的に強い選好理由を提示する。また、先進工学部が掲げる「グリーン（GX）」や「先端メカトロニクス」は、現在の高校教育における探究学習とも親和性が高く、早期から本学を志望する層の拡大が期待できる。このように、募集の軸足を「伝統的工学」から「社会課題解決型の先進工学」へとシフトさせることで、入試区分ごとの歩留まり率を劇的に改善し、中長期的な定員充足の蓋然性を担保する。

*** 添付データ：【資料 3】既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2 の 2-1）**

2) 感性デザイン学部感性デザイン学科の入学定員の充足率の状況（直近 5 年間）

【資料 3】（別紙 2 の 2-2）に示す通り、5 ヶ年平均充足率は 0.75（75%）である。令和 3 年度には定員を上回る充足（1.06）を達成していたが、翌令和 4 年度以降は定員割れの状態が継続している。特に令和 5 年度には充足率 0.52（入学者 26 名）まで落ち込んでおり、小規模組織ゆえに志願者の僅かな変動が充足率に深刻な影響を及ぼす不安定な状況が顕著となっている。

① 入試区分別の入学動向と課題

・総合型選抜および学校推薦型選抜（年内入試への依存）

入学者全体の平均約 77%が年内入試によるものであり、本学科を第一志望とする層の確保に依存している。しかし、総合型選抜は令和 3 年度（29 名）から令和 4 年度（9 名）へと急落した後、16～17 名程度で推移しており、安定性に欠ける。

・一般選抜および共通テスト利用入試

一般選抜の入学者は 5 ヶ年平均で 3.2 名であり、令和 5 年度には 0 名を記録した。共通テスト利用も平均 5.2 名に留まる。併願を前提とする一般受験層に対し、「感性デザイン」という名称や学問領域の強みが十分に訴求できていないことを示唆している。

② 分析のまとめと課題と改組の妥当性

・市場認知と併願力の弱さと規模の不利益

一般選抜での入学者が極めて少ないことは、国公立大学や他大学との併願先として選ばれていない現状を露呈している。また、定員 50 名という規模では、教育・研究の多様性をアピールしにくく、特定の狭い関心層（年内入試層）以外に波及していない。

・既存概念の限界

「感性デザイン」という名称が内包する芸術・感覚的なイメージと、実際の工学的基盤とのバランスが受験生に正しく理解されておらず、募集上のミスマッチが生じている。

・改組（先進工学部）への必要性

以上の結果から、既存の感性デザイン学部を解体し、同学部が培ってきた「感性・人間中心の視点」を工学の最先端領域へと融合・深化させた「先進工学部（定員 100 名）」へと再編する。本改組は単なる組織の置き換えではなく、以下の戦略的必要性に基づくものである。

募集ターゲットの抜本的拡大：従来の感性・デザイン領域のみに限定されていた志願者層を、社会的な関心が極めて高い「環境エネルギー」「生物資源」「ロボット・モビリティ」等の実学・先端領域へと明確にシフトさせる。これにより、理工系志向の強い一般選抜層を確実に獲得できる体制を構築し、募集力を最大化させる。

「感性」を実装した次世代工学の創出：感性デザイン学部で培った「人の感性に寄り添う視点」を、自動運転（モビリティ）や生活支援ロボット、持続可能なエネルギー活用等の先進工学分野に統合する。これにより、単なる機能追求に留まらない、「社会や人間と調和する高度な技術実装」が可能な、唯一無二の教育課程を提示する。

産業界の人材需要への即応：深刻な不足状態にある「GX（グリーントランスフォーメーション）および次世代モビリティに対応できる工学人材」の育成を主眼に置く。産業界が求める「付加価値を創造できる高度専門工学人材」を、6 プログラムの専門教育を通じて地域社会へ安定的に輩出する体制を整えることは、本学の社会的使命である。

*** 添付データ：【資料 3】既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2 の 2-2）**

3. 学生確保の見通し

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

1) 既設組織における取組とその目標

【資料 4】（別紙 3）に既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績を示す。本学がこれまで実施してきた広報・PR 活動の実績を分析した結果、特に「オープンキャンパス」および「大学案内（資料請求）」の二つの活動が、入学者確保に極めて高い寄与度を持っていることが明らかとなった。近接する学問分野を持つ既設組織（工学部・感性デザイン学部）における過去 2 年間の実績は以下の通りである。

・添付データ：【資料 4】既設学科等の収容定員の充足状況（別紙 3）

① オープンキャンパスの実施と入学への寄与

本学では、各学部・学科の教育内容や特色を直接体験できるオープンキャンパスを継続的に開催している。

・令和 6 年度入試: 受験対象者 194 人のうち、112 人が入学（入学率 57.7%）

・令和 7 年度入試: 受験対象者 150 人のうち、94 人が入学（入学率 62.7%）

オープンキャンパスに参加した受験対象者の入学率は、直近 2 年間の平均で約 6 割(60.2%)という高い水準に達している。このことから、実際のキャンパスライフや施設・教員に触れる「対面型・体験型」の PR 活動が、本学への志望度を決定づける極めて有効な手段であることが立証されている。

② 大学案内の配布・資料請求による PR 効果

大学の全体像や将来のキャリアパスを提示する「大学案内」の配布状況についても、着実な実績を上げている。

・令和 6 年度入試: 受験対象者 5,000 人のうち、111 人が入学（入学率 2.2%）

・令和 7 年度入試: 受験対象者 5,500 人のうち、102 人が入学（入学率 1.9%）

配布部数は前年度比で 500 部（10%）増加しており、本学に対する潜在的な関心層は拡大傾向にある。広範な資料配布を通じて認知度を向上させ、その一部を確実に受験・入学に繋げる「プッシュ型」の広報戦略が機能している。

③ 教員向け説明会・見学会を通じた地域連携

北東北 3 県（青森・岩手・秋田）を中心に、年間 12 回、約 40 校の高校教員を対象とした説明会や見学会を実施している。取組内容は教育特色、学生支援、就職・入試情報の詳細を教員に直接説明することで、進路指導の現場における本学のプレゼンス向上を図っている。特に県内高校を対象とした体験実習や模擬授業を通じて、教員を介した質の高い志願者確保に努めている。

*** 添付データ：【資料 4】既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3）**

2) 新設組織における取組とその目標

① 学生募集のための PR 活動の方針及び戦略

既設組織における分析結果（オープンキャンパス参加者の入学率約 60%、大学案内の資料請求数増加など）を踏まえ、先進工学部では「技術への憧れ」を「入学意欲」へ昇華させる以下の 3 戦略を展開する。

・「体験型広報」の深化と女子受験生ターゲット拡大

高い入学率を誇るオープンキャンパスを核とし、先進工学部の 6 プログラムに対応した最新設備や研究を活用。単なる見学に留まらず、体験メニューを戦略的に配置し、理学・農学志向を含む幅広い受験層を工学の世界へ誘致する。

理工系分野におけるジェンダーバランスの最適化を重要課題と位置づけ、2024 年度に設置した「STEAM 女子推進・支援室」の活動を全面的に発信する。女子学生が意欲的かつ安心して学生生活を送ることができるよう、学内施設の整備（アメニティの充実等）や、女子学生チームによるプロジェクト、学年を横断した「女子学生交流会」の実施状況を可視化。これにより、入学後に想定される不安（一人暮らし、学習、就職活動等）を解消する独自のサポート体制を強力に訴求する。

さらに、女子生徒を対象とした「指定校制女子特別枠」の活用を推進する。本制度は、女性技術者の育成を熱望する地域企業 60 社以上からの寄付金を原資に入学金相当額を給付するものであり、単なる学内制度に留まらず「社会が女性技術者の活躍を強く求めている」という実証的事実を、本人、保護者、および進路指導教員へ明確に提示するものである。

加えて、先進工学部の 6 プログラムと女性のキャリアパスの親和性を強調する。具体的には、「生物資源科学」によるスマート農業やバイオ技術、「モビリティ工学」「ロボット工学」における人間中心のユニバーサルデザインなど、女性の視点が不可欠な先端領域を提示。震災復興やインフラ整備、精密機器開発など、多様な志を持つ女子学生の夢が、本学の専門教育を通じて実現可能であることを、在学生の実例を交えて紹介し、志願者の獲得を図る。

・デジタルとアナログのハイブリッド展開

Web 広告や SNS (Instagram, X, YouTube 等) において、「カーボンニュートラル」「スマート農業」といった高校生の関心が高いキーワードでターゲティングを行い、特設サイトへの流入を促進。資料請求からオープンキャンパス来場、そして出願へと繋げる「リード育成」を、プログラムごとに最適化して展開する。

・出口戦略（人材需要）を可視化した訴求

人材需要調査で示された「GX・先端技術者への高い需要」を可視化。特に先進工学部の 6 プログラムが、東北・青森の基幹産業（エネルギー、製造、農林水産）の DX/GX 化に直結していることを図示し、保護者や進路指導教員に対し、就職先としての確実性と将来のキャリアパスを強力に訴求する。

② 実施計画・目標

・オープンキャンパス

年間 4 回以上の開催。各回で「6 プログラム体験フェスタ」を実施し、専門領域の魅力を直接伝えることで、参加者数を既設実績から 30%向上させる。

・大学案内・資料請求

先進工学部のブランドイメージを反映したパンフレットを早期に作成。配布目標を年間 6,000 部とし、県外（東北全域）への配布網を拡大する。

・高校訪問・教員説明会

北東北 3 県を中心に年間 600 校以上の訪問を実施。特に普通科高校の進路指導教員に対し、従来の工学部のイメージを覆す「先進工学部の学際性」を丁寧に解説する。

3) 当該取組の実績の分析に基づく、新設組織での入学者の見込み数

既設組織の過去 2 年間の実績に基づき、先進工学部（定員 100 名）において同様の取組を実施した場合の入学者見込み数を算出する。

① オープンキャンパスによる見込み（60 名以上／学部）

既設実績（R7 年度入学率 62.7%等）から、参加した受験対象者の約 6 割が入学に至ることが証明されている。先進工学部の新設による注目度向上により、同領域への参加受験対象者を 100 名まで引き上げることで、学部定員の 6 割をこのルートから確実に確保する。

② 大学案内・資料請求による見込み（40 名以上／学部）

資料請求者の入学率は約 2%で推移している。先進工学部の広報強化（6 プログラムの専門性訴求）により、年間 2,000 部（3 学部合計 6,000 部の 1/3）の請求を目標とすることで、40 名の入学者確保を見込む。

③ 総合評価

上記の主要な取組に加え、「6 プログラムに関連する指定校推薦枠の再編」や「高大接続事業（出前授業）」による早期囲い込みを組み合わせることで、先進工学部の入学定員 100 名を安定的に充足させることは、過去の実績値に照らしても十分に達成可能な数値である。

(2) 競合校の状況分析

1) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

1-1) 競合校の選定理由

本学の主たる学生募集地域である北東北 3 県において、理工系・情報系・デザイン系への進学を希望する志願者は、本学のほか、仙台圏に所在する「東北工業大学」および「東北学院大学」を主な併願先とする。両校は本学と設置分野が類似しており、志願者確保における直接的な競合関係にある。

① 東北工業大学との比較

東北工業大学は、工学・建築・ライフデザインの 3 学部を擁する東北最大規模の私立理工系大学である。同大は分科型の伝統的な組織体系を採り、各分野の裾野を広く網羅する汎用的な教育に強みを持つ。

これに対し、本学先進工学部の優位性は、「組織の先鋭化と次世代領域への特化」にある。東北工業大学が伝統的な工学の枠組みで広範な教育を展開するのに対し、本学は「先進工学部」として、環境エネルギー、次世代モビリティ、生物資源といった、現代社会の喫緊の課題である GX（グリーントランスフォーメーション）に直結する分野へ組織を先鋭化させている。汎用的な工学教育を行う同大に対し、本学は最先端の特定領域を基軸とすることで、より濃密かつ先導的な専門教育を提供している。

② 東北学院大学との比較

東北学院大学工学部は、機械知能、電気電子、環境建設の伝統的な工学 3 学科を擁する総合大学である。総合大学のリソースを活かした幅広い教養教育と、都市型キャンパスにおける文理融合教育を推進している。

これに対し、本学先進工学部の優位性は、「地域課題への直接対応と専門深化」にある。東北学院大学が標準的な工学体系を維持するのに対し、本学は、環境エネルギー、生物資源（農水産連携）、モビリティ等、北東北の基幹産業に直結した 6 プログラムを配置している。特に、青森県が国内有数のエネルギー供給拠点であることを踏まえた「エネルギー・環境」の深化や、一次産業と工学を融合させた「生物資源」の活用など、地方の存続に不可欠な特定分野において、同大を凌駕する実学重視の専門深化型教育を提供している。都市型の汎用

教育を展開する同大に対し、本学は地域産業の現場に即した即戦力性の高いエンジニアを養成する。

1-2) 学部・組織構成、教育内容の優位性

伝統的な「学科単位の縦割り教育」を主軸とする競合校に対し、本学の先進工学部は、6つのプログラムを横断的に配置することで、「技術の社会実装」を目的とした教育体系を構築している。特に、従来の工学教育では不十分であった「生物資源」や「次世代モビリティ」を工学の枠組みに統合した点は、農水産業と工業が共存する北東北の産業構造に合致した、本学独自の先駆的な組織形態である。

① 環境エネルギー科学プログラム

東工大は「物質・化学」の視点、学院大は「建設・環境保全」の視点が主である。本学は、再生可能エネルギーの集積地である北東北の特性を活かし、「エネルギーの生成から供給、環境保全まで」をシステムとして捉える教育を展開する。単なる物質研究に留まらず、カーボンニュートラル社会の実装を担うエンジニアを育成する点で、地域ニーズへの適合性が高い。

② 生物資源科学プログラム

両校とも純粋な理工系組織であり、生物・農水産分野を工学的に扱う組織を持たない。本学独自の圧倒的な差別化領域。青森県の基幹産業である農林水産業に工学的アプローチ（バイオ・自動化・高付加価値化）を導入する。工学の知見を一次産業へ還元する人材育成は、食料基地としての地域特性を背景とした本学固有の使命である。

③ ロボット工学 / ④ モビリティ工学プログラム

学院大の「機械知能」は汎用的なロボット技術が中心。東工大は通信・制御の一部。本学は、「ロボット」と「モビリティ」を独立した重点領域として設定。製造現場の自動化（ロボット）と、過疎地や積雪寒冷地の移動課題解決（モビリティ）という、地方都市の喫緊の課題に直結した先鋭的な教育を展開する。汎用的な機械工学を超えた、目的特化型の技術教育を行う。

⑤ 機械工学 / ⑥ 電気電子通信工学プログラム

両校とも伝統ある学科として設置されており、安定した教育基盤を持つ。本学のこれら2つの基盤プログラムは、単独の専門性追求に留まらず、同一学部内の「環境エネルギー」「ロボット」「モビリティ」を支えるコア技術として再定義されている。先進分野を支える確かな基盤として、地域企業の技術維持・高度化に直接寄与する「即戦力かつ高度な技術者」を育成する。

1-3) 経済的支援の妥当性と戦略的特待制度

本学の学納金体系は、近隣の仙台圏に所在する私立理工系大学と比較し、低廉な水準に設定されている。これは、青森県および北東北3県における経済状況を鑑み、家計の経済的負担を抑制することで、意欲ある学生に対する修学の機会を広く保障することを目的として

いる。仙台圏の諸大学と同等以上の教育研究環境を維持しつつ、経済的障壁を低減した学修機会を提供することで、修学の継続を組織的に支援している。

また、地域における優秀な人材の流出を抑制するため、学校推薦型選抜の合格者のうち、全体の学習成績の状況が 4.6 以上の学生に対し、授業料の 2 分の 1 を給付する手厚い特待制度を運用している。これにより、国公立大学志望層を含む層に対し、地元進学への強力なインセンティブを提示している。加えて、入試成績のみならず地域貢献への意欲を評価する独自の支援枠を設け、意欲ある若者の進学機会を保障している。

1-4) 学修保障と継続的支援

・「学習支援センター」による学修保障

教員一人あたりの学生数が少ない本学の特性を活かし、学習支援センターによる基礎学力の補完体制を構築している。入学時における学力の多様化に対応し、リメディアル教育を通じて高度な専門教育へ円滑に移行させる体制は、学生一人ひとりに目が届く本学独自の強みである。

・「担任制度」による継続的支援

大規模校における組織的な事務対応に対し、本学では入学から卒業まで同一の教員が継続的に伴走する「全学的担任制度」を導入し、履修指導、学修進捗の把握、生活相談、および進路指導に至るまで、学生の特性に応じた個別最適な指導を定常的に実施している。この「顔の見える」支援体制により、学生の精神的・学術的な不安を早期に解消している。

・中退防止と学修定着に向けた組織的連携

担任が学生の微細な変化を早期に察知し、学習支援センター等と組織的に連携して補習や面談を行う体制を確立している。これにより、理工系教育において懸念される学修未定着や中途退学を未然に防ぎ、高い教育成果と卒業時における専門性の確保を実現している。

1-5) グループ高校 2 校を有する「高大接続」の強み

本学は 2 つの附属高校を有しており、これは仙台圏の私立工業系大学と比較しても強固な学生確保の基盤および教育的メリットとなっている。

・教育の連続性

グループ高校との間で行われる高大連携教育（出前講義、施設利用等）を通じて、入学前から工学・情報・デザインへの興味・関心を醸成し、大学での学びにスムーズに移行できる体制を整えている。

・安定的な学生確保

本学にとって最大の学生供給源であるグループ高等学校との円滑な連携は、人口減少社会における安定的な入学者確保の基盤であり、新組織の運営における持続可能性を担保するものである。グループ高等学校からの内部進学者を対象とした「グループ高校内部進学特待生制度」を戦略的に運用し、法人一体となった内部進学促進施策を講じている。これにより、高大一貫教育のメリットを活かした早期の専門教育導入や、接続教育の深化を通じた教育研究力のさらなる向上を推進している。

1-6) キャリア形成と資格取得

・就職支援と資格取得支援

北東北 3 県の産業界との強固なネットワークを活かし、担任と就職担当部署が連携した個別指導を行う。仙台圏の大学が都市型産業を主な対象とする中、本学は「地域の守り手」となる技術者を確実に輩出している。これまでも地域ニーズの高い国家資格（建築士、技術士補、電気主任技術者、情報処理技術者等）をはじめとして、各種専門分野に関連した取得をカリキュラム内で強力に支援している。

・教員養成を通じた地域教育基盤への貢献と地域定着の促進

本学は、高度な専門技術者の育成に留まらず、次世代の技術者育成を担う「中等教育における教育者（中学校・高等学校教諭）」の養成を教育の重要な柱の一つとして位置づけている。近隣広域圏の私立理工系大学においても教職課程は設置されているが、本学の特筆すべき点は、北東北における工学・情報教育の担い手不足という地域課題に対し、直接的な解決策を提示している点にある。本学で学んだ優秀な学生が教員として地域に戻り、次世代の生徒に工学・情報の魅力を伝えることで、本学への進学、さらには地域産業界への就職という「人材育成の循環構造」を構築する。これは、単なる資格取得に留まらない、地域定着の促進に向けた本学独自の戦略的取り組みである。

2) 競合校の入学志願動向等

【表 1-1】、【表 1-2】に近隣の主要併願校である東北工業大学および東北学院大学の直近 3 カ年の志願動向をしめす。

東北工業大学の工学部（分科型）が充足率を微減させている一方で、総合大学である東北学院大学の工学部は 105%前後で安定している。これは、受験生が単なる技術修得だけでなく、より広い視野や文理融合的な教育を求めている傾向の現れと言える。

【表 1-1】 東北工業大学の過去 3 年間の入学志願状況

		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
工学部 入学定員 385 名	志願者数	1,853 名	1,697 名	1,495 名
	入学者数	375 名	358 名	355 名
	入学定員充足率	97.4 %	93.0 %	92.2 %

【表 1-2】 東北学院大学の過去 3 年間の入学志願状況

		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
工学部 入学定員 360 名	志願者数	1831 名	1971 名	1742 名
	入学者数	372 名	380 名	380 名
	入学定員充足率	103.3%	105.6%	105.6%

3) 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

① 本学新設組織の優位性と充足の理由

既存校の充足率が停滞する中で、本学の新設組織が確実に入学者を確保できる理由は、以下の「組織の先鋭化」と「地域適合性」にある。

先進工学部においては、競合校には存在しない「生物資源科学プログラム」を配置した。北東北の最重要課題である一次産業の工学的高度化（スマート農水産業）を掲げることで、既存の工学部志願者層とは異なる「農・食・工の融合」を志向する新規層を開拓できる。

② 「北東北 3 県」という戦略的募集エリアと経済的合理性

競合校が仙台圏を主戦場とする中、本学は北東北 3 県に深く根ざした募集戦略を展開する。

- ・**地域密着型教育**：地域のリアルなデータ（寒冷地、過疎、一次産業）を教育に用いることで、卒業後の地域貢献を志向する安定した志願者層（特に学校推薦型選抜層）を確保する。
- ・**経済的障壁の除去**：仙台圏への進学（下宿等を含む経費負担）が困難な層に対し、低廉な学納金と強力な特待生制度（評定 4.6 以上で授業料半額等）を提示する。これにより、経済的理由で進学を断念、あるいは分野を変えていた層を、本来の志望である理工系・情報系へと呼び戻す。

③ 結論（定員充足の蓋然性）

以上の分析の通り、近隣の理工系組織における充足率の低下は、既存の伝統的工学モデルの制度疲弊を示すものであり、工学分野そのものの需要減退ではない。

本学の「先進工学部」は、以下の 3 つの戦略的優位性により、競合校が応えきれていない「空白地帯（ニッチ市場）」を確実に掌握している。

独自領域の開拓（農水産×工学の融合）：「生物資源科学」を工学の枠組みに内包し、東北・青森の基幹産業に直結する「農水産×工学」の独自領域を確立。他大学の一般的な工学部とは明確に差別化された学問領域を提示することで、新たな志願層を創出している。

社会課題解決型プログラムの提示：環境エネルギー、ロボティクス、次世代モビリティといった、現代社会の要請（GX/DX）に完全に合致した 6 プログラムを体系化。受験生および保護者にとって、「学びの出口（就職）」が極めて明確な組織へと刷新した。

・**強固な入学確保基盤と経済支援**：強力な高大接続（グループ高校 2 校）による安定的な内部進学層に加え、地域企業 50 社以上の賛同を得た「指定校制女子特別枠」をはじめとする圧倒的な経済支援施策が、志願者の強力な下支えとなっている。

北東北という立地特性を最大限に活かした「地域産業直結型教育」と、これら多角的な募集施策を組み合わせることで、先進工学部の設置初年度より入学定員を確実に充足させることが可能であると判断する。

4) 学納金等の金額設定の理由

本学の新組織（3 学部共通）の学納金設定の妥当性を検証するため、主な募集地域における競合校である東北工業大学（宮城県）および東北学院大学（宮城県）との比較を行う。比

較項目は、入学金、授業料、維持費等を含む 4 年間の総額とする。新設組織の学納金等を【表 2】に、競合校の学納金等を【表 3-1】、【表 3-2】に示す。

【表 2】新設組織の学費等：3 学部共通 (円)

学費項目	入学年次	2 年次	3 年次	4 年次	4 年間合計
入学金	250,000	—	—	—	250,000
授業料	980,000	980,000	980,000	980,000	3,920,000
維持費等	352,000	361,000	361,000	361,000	1,435,000
計	1,582,000	1,341,000	1,341,000	1,341,000	5,605,000

【表 3-1】競合校の学費等：東北工業大学 工学部（全課程）・建築学部（建築学科）・
ライフデザイン学部（産業デザイン学科） (円)

学費項目	入学年次	2 年次	3 年次	4 年次	4 年間合計
入学金	250,000	—	—	—	250,000
授業料	1,010,000	1,010,000	1,010,000	1,010,000	4,040,000
維持費等	340,000	340,000	340,000	340,000	1,360,000
計	1,600,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000	5,650,000

【表 3-2】競合校の学費等：東北学院大学 工学部 (円)

学費項目	入学年次	2 年次	3 年次	4 年次	4 年間合計
入学金	270,000	—	—	—	270,000
授業料	1,098,000	1,098,000	1,098,000	1,098,000	4,392,000
維持費等	350,000	350,000	350,000	350,000	1,400,000
計	1,718,000	1,448,000	1,448,000	1,448,000	6,062,000

① 学納金設定の理由

本学の学納金設定にあたっては、以下の 3 点を基本方針としている。

・家計負担への配慮と修学機会の確保

本学の授業料は年額 980,000 円であり、比較校がいずれも 1,000,000 円を超える設定であるのに対し、抑制的な金額設定としている。これにより、経済的理由による進学断念を防ぎ、北東北を中心とする志願者に広く修学の機会を提供することを目指している。

・地域経済状況の反映（地域性の考慮）

本学の所在する青森県は、競合校の所在する宮城県（仙台圏）と比較して、物価水準および平均所得に差異がある。宮城県の私立理工系大学と同水準、あるいはそれ以下の学納金設定とすることで、地域社会の経済状況に適合した適正な負担額としている。

・教育組織の再編に伴う公平性の維持

今回の改組において、設置する3学部（総合情報学部、先進工学部、デザイン工学部）の学納金を同一金額に設定した。これにより、学生が経済的理由に左右されることなく、自身の適性や志向に基づいた学部選択を行える環境を整備している。

② 設定の妥当性

・経済的妥当性

4年間の総額（5,605,000円）において、東北工業大学より45,000円、東北学院大学より457,000円低い設定となっている。特に初年度納付金においては、競合校の中で最も低い1,582,000円に抑えられており、入学時の保護者の経済的負担を軽減している点は、公教育を担う機関として極めて妥当性が高いと判断できる。

・地域社会への適合性

仙台圏の大学へ進学する場合、学納金に加えて下宿費用等の生活費負担が増大する傾向にある。本学が学納金を抑制し、かつ地元（北東3県）に根ざした教育を提供することは、地域の人材流出抑制と家計の教育費負担軽減の双方において合理的な意義を有している。

・教育品質の担保

維持費等を年額35～36万円程度確保することで、理工系教育に不可欠な最新の実験実習設備や情報インフラの更新・維持を継続的に行う体制を整えている。安価な設定に留まるだけでなく、教育の質を維持・向上させるための資源を適切に配分しており、設定金額と提供する教育サービスのバランスは適正である。

以上の通り、本学の学納金は、競合する近隣他大学の実績を精査し、地域経済の実態と学生の修学継続を最優先に考慮して設定されたものである。他大学と比較して競争力のある価格設定でありながら、教育環境の維持に必要な経費を確保しており、新組織の設置にあたって極めて妥当な金額設定であるといえる。

(3) 先行事例分析

該当なし

(4) 学生確保に関するアンケート調査

1) 調査の概要

本学では、令和9（2027）年4月の設置・改組を構想している「総合情報学部」「先進工学部」「デザイン工学部」の3学部（各入学定員100名）について、その設置の妥当性と学生確保の見通しを検証するため、進学需要調査を実施した。調査は令和7年10月から令和8年1月にかけて、本学と接点を持つ東北6県の高等学校（各学部約30校）の第1学年および第2学年の生徒、延べ約18,000人を対象に、高等学校留め置き方式による無記名アンケートにて行った。

2) 進学需要分析

既存の工学部を改組し、モビリティやロボット工学等の先端領域を強化した本学部は、工学志向の生徒から安定した支持を得ている。クロス集計による確実な入学見込層は、2年生

で 103 名、1 年生で 101 名であった。低学年ほど「他校との併願」を視野に入れる傾向はあるものの、第一志望層だけで定員を上回る結果となっている。

3) 総合評価と今後の学生確保見通し

調査結果を総括すると、各学部の入学生定員 100 名に対し、ターゲットとなる「確実な入学見込層」がいずれも 100 名を超えて存在している。この数値は、進学希望条件を厳格に絞り込んだ（私立容認・第一志望・専願志向）クロス集計に基づくものであり、募集計画の妥当性を極めて高く裏付けるものである。

東北地方の高校生は依然として高い国公立志向（約 8 割）を持つが、本調査では「新設学部への高い関心」と「第一志望層の確保」が明確に示された。今後は、これら確実な需要層を確実に合格へ導くとともに、国公立志向層に対しても本学独自の「地域共創教育」や「先端技術とデザインの融合」という付加価値を訴求することで、安定的な志願者確保に努める。

以上の通り、本学の先進工学部新設・改組計画は、進学需要の観点から見て、適正な規模と妥当性を備えたものである。

*添付データ：【資料 5】進学需要等に関するアンケート調査結果報告書

(5) 人材需要に関するアンケート調査等

1) 調査の概要

本学では、令和 9（2027）年 4 月に開設・改組を予定している「総合情報学部」「先進工学部」「デザイン工学部」の 3 学部が養成する人材に対し、産業界からの実質的な需要を把握するため、人材需要調査を実施した。調査は令和 7 年 12 月から令和 8 年 1 月にかけて、本学の卒業生に対して求人・採用実績のある企業 317 社を対象にオンライン形式で行い、129 社から有効回答を得た（回答率 40.7%）。回答企業の所在地は青森県（46.5%）および東京都（24.8%）を中心に全国広域にわたっており、地方産業と都市部産業の両面から意見を収集した。

2) 先進工学部の需要分析結果

カーボンニュートラルやロボット・食品化学工学など、先端技術を扱う人材への必要性は 98.4%に達した。採用意向も 88.4%と極めて高い。回答企業における具体的な採用見込みを「1 人」、「2 人」、「3 人以上」、「人数は未定」と回答した関連企業等は 114 件となっている。具体的な採用見込み人数は計 158 名（定員比約 1.6 倍）にのぼる。製造業やエネルギー産業における技術革新を担う人材として、既存の工学を超えた「先進工学」への高い需要が確認された。これは、本学の構想する教育内容が現代の産業構造の変化や企業の採用ニーズと合致していることを客観的に示すものである。

また、今後の人材採用の見通しについて、回答企業の 75.2%が「増加すると思う」と回答しており、中長期的な視点においても卒業生の就職環境は極めて安定していると判断できる。本学はこれらの高い期待に応えるべく、地域社会および産業界を牽引できる高度な専門職業人の育成を確実に推進していく。

以上、本調査に基づき、先進工学部の設置による人材養成は社会的要請に十分に應えるものであり、卒業後の進路確保の見通しについても極めて妥当であると結論付ける。

***添付データ：【資料 6】人材需要等に関するアンケート調査結果報告書**

4. 新設組織の定員設定の理由

(1) 既存組織における定員未充足の現状と分析

本学の既存組織（工学部：定員 250 名、感性デザイン学部：定員 50 名）における近年の定員未充足については、以下の 3 点が主な要因であると分析している。

・学問分野の固定化とミスマッチ

従来の伝統的な「工学」の枠組みが、急速に進展する DX（デジタルトランスフォーメーション）やグリーン社会への転換といった現代の受験生・産業界のニーズと乖離し、志願者の動機付けが弱まっていた。

・定員規模のミスマッチ

特に工学部の定員 250 名は、現在の東北地方における 18 歳人口の減少スピードに対し過大な規模となっており、教育リソースの集中投下が困難な状況にあった。

・学問的融合の不足:

工学とデザインが分離していたことで、現代社会に求められる「付加価値創造（デザイン）を伴う技術（工学）」という学びのパッケージを提供できていなかった。

(2) 改組による「定員充足」への戦略的転換

今回の改組は、単なる名称変更ではなく、前述の分析に基づき定員充足を確実にするための「構造改革」として実施するものである。

・「3 学部各 100 名」への再編による志願倍率の適正化

既存の枠組みを解体し、先進工学部を 100 名という適正規模に設定した。これにより、従来の「広汎な工学」という曖昧な募集単位から、「6 プログラムによる顔の見える専門教育」へと転換する。受験生が「どの先端技術を学び、どの産業で活躍するか」というキャリアパスをより具体的に描ける体制を構築し、入学意欲の質的向上と歩留まりの改善を図る。

・社会的要請に直結した「先進工学」への刷新

「環境エネルギー」「生物資源」「次世代モビリティ」等、人材需要調査に裏打ちされた成長分野に特化する。特に先進工学部が担う領域は、地域の GX・DX 化を牽引する中核人材として、「出口（就職）から逆算した強い志願動機」を創出できる極めて競争力の高い構成となっている。

(3) 調査結果による裏付けと充足の見通し

今回の新設学部に対する進学需要調査（高校生約 18,000 人対象）では、既存組織では十分に捉えきれなかった「第一志望かつ専願志向」の層が、先進工学部においても定員 100 名を安定的に超える水準で抽出されている。

先進工学部は、伝統的な工学教育を「社会課題解決型の先進工学」として再定義した。具体的には、「環境・エネルギー」「食品・バイオ」「ロボット・電気電子」等の具体的出口を鮮明に打ち出すことで、従来の工学志望層に加え、理学・農学・生命科学を志向する新たな母集団を確保する。これにより、入試における実質倍率を維持し、質の高い志願者の安定的な確保を実現する。

(4) 結論

本改組は、既存の定員未充足という課題を真摯に受け止め、社会的ニーズと進学需要のミスマッチを解消するために断行するものである。先進工学部における「定員 100 名」という設定は、人材需要調査における具体的な採用見込み、および進学需要調査における確実な入学見込層（定員の 1 倍超）の双方から算出された「確実に充足可能な適正規模」である。

加えて、前述の「STEAM 女子推進・支援室」によるリケジョ確保戦略や、60 社以上の地域企業との連携による経済支援制度が強力なセーフティネットとして機能する。以上のことから、本計画における定員設定は極めて妥当であり、設置初年度から将来にわたる継続的な定員充足は十分に可能であると判断する。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

【資料 1】 18 歳人口予測	1
【資料 2】 新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）	17
【資料 3】 既設学科等の収容定員の充足状況（別紙 2）	18
【資料 4】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2-1、2-2） . .	19
【資料 5】 高校生の入学意向調査結果報告書	21
【資料 6】 人材需要に関するアンケート調査票	42
【資料 7】 リーフレット	59

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 東北版

- 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県 -



【将来予測 2025～2037年】

▶18歳人口予測 P2～P4

- ・ 2025年73,778人→2037年55,139人（18,639人減少）
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.7%減少）

【経過推移 2016～2025年】

▶進学者数・進学率（現役）の推移 P5～P10

進学者数

- ・ 大学は、2016年31,759人→2025年31,094人（665人減少）と、2.1%減少
- ・ 短期大学は、2016年4,361人→2025年2,402人（1,959人減少）と、44.9%減少
- ・ 専門学校は、2016年13,762人→2025年10,984人（2,778人減少）と、20.2%減少

進学率（現役）

- ・ 大学は、2016年39.1%→2025年47.5%（8.4ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2016年5.4%→2025年3.7%（1.7ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2016年16.9%→2025年16.8%（0.1ポイント低下）

▶地元残留率の推移 P11～P13

- ・ 大学は、2016年34.1%→2025年35.8%（1.7ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2016年66.4%→2025年69.1%（2.7ポイント上昇）

▶東北エリア概要（全体：県別） P14～P16

■ 分析・データについて

- ① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口＝3年前の中学校卒業生＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業生＋特別支援学校（中学部）卒業生
 - ・ 中学校卒業生数＝高校生＋フリーター＋就職者 全て含む
- ※2025年度学校基本調査より、特別支援学校の在籍者・卒業生数も対象に含めている。
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 卒業生数とは、高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）。
- ⑤ 進学者数とは、高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数。
- ⑥ 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）で算出した。
- ⑦ 残留率とは、自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）。
- ⑧ 図表で利用している百分率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

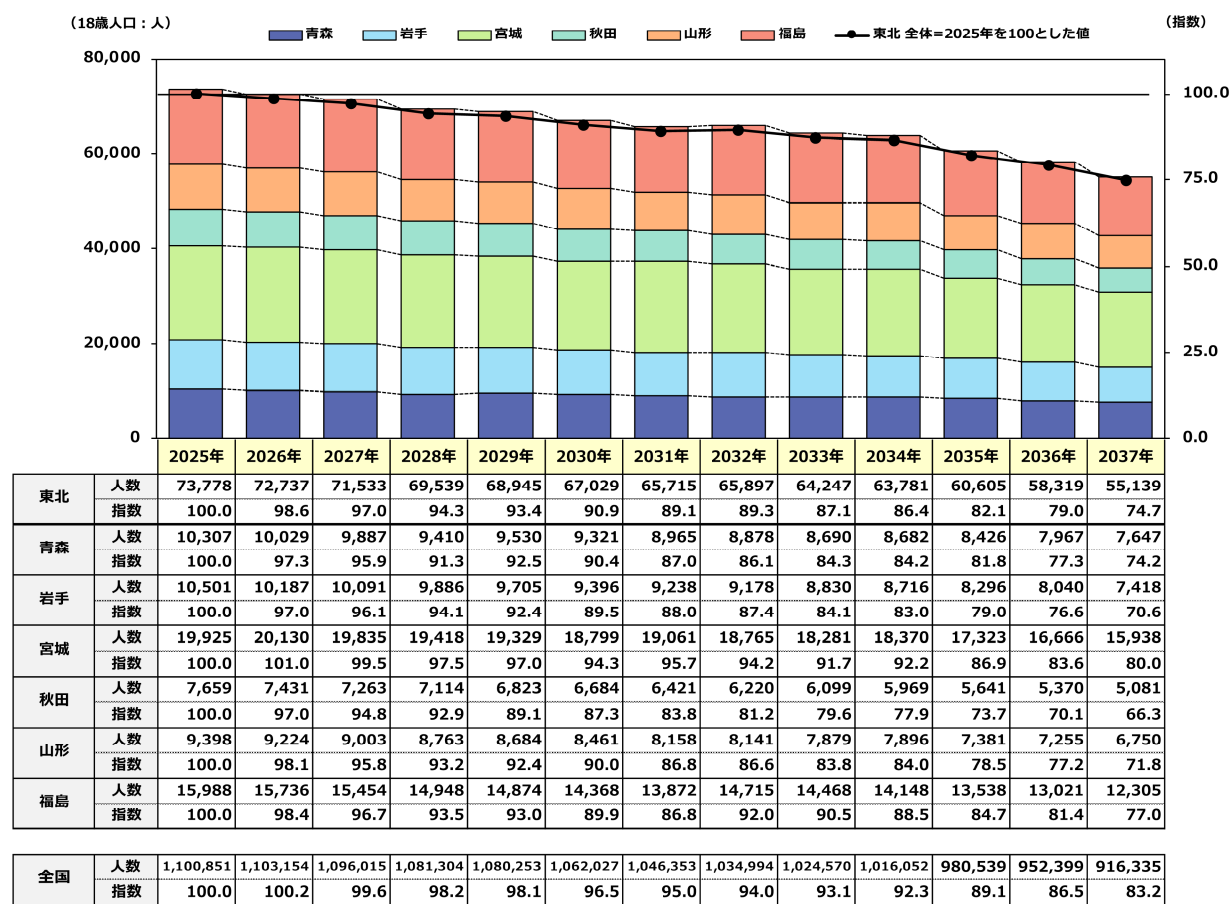
※専門学校＝専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<https://souken.shingakunet.com/>

18歳人口予測（全体：東北：2025～2037年）

■ 2025年73,778人→2037年55,139人（18,639人減少）

- ・ 東北エリアは18,639人・25.3%減少し、全国の減少率16.8%を8.5ポイント上回る。
- ・ 2026年以降減少し、2032年に微増するものの、2037年までに18,639人減少する。
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.7%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、宮城県（2025年19,925人→2037年15,938人、3,987人減少）。

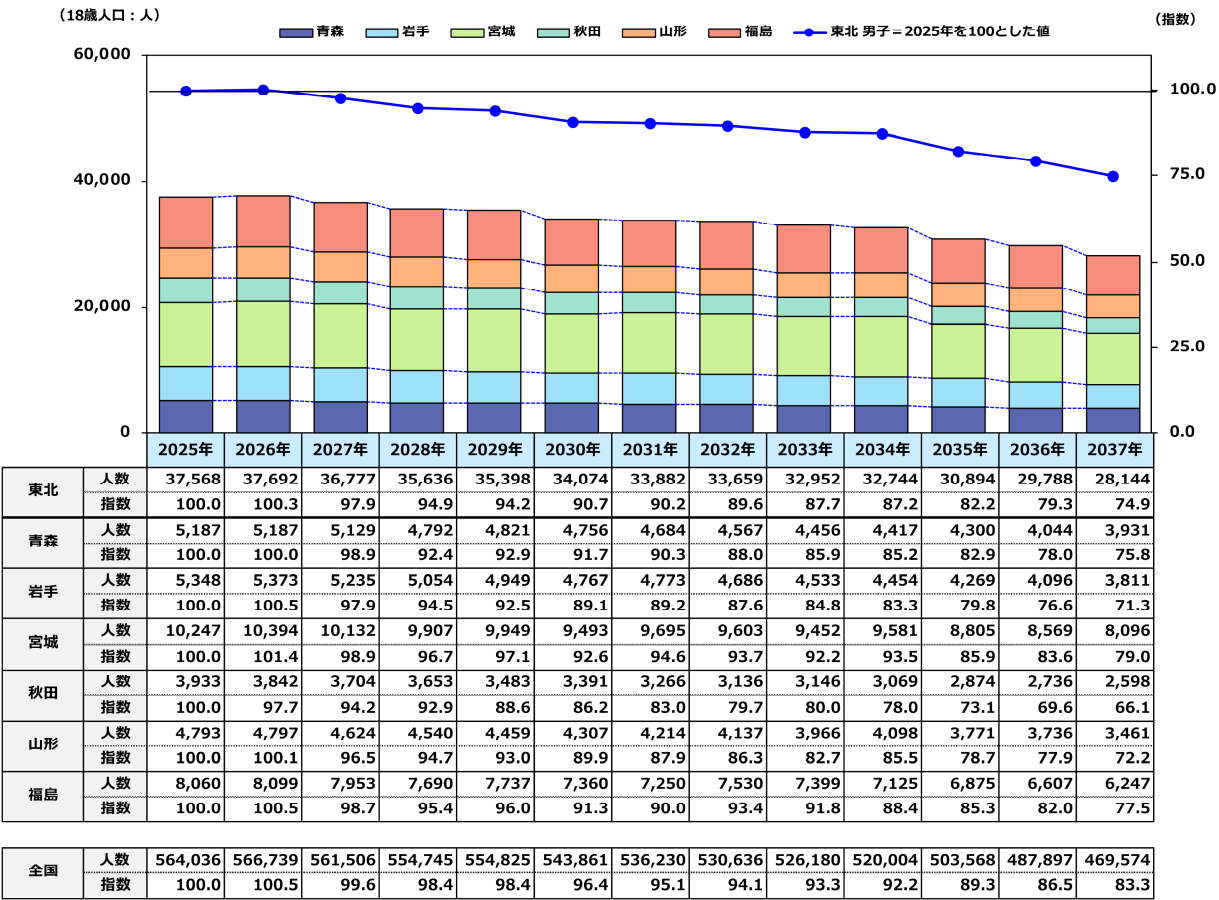


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：東北：2025～2037年）

■ 2025年37,568人→2037年28,144人（9,424人減少）

- ・ 男子は9,424人・25.1%減少し、全国の減少率16.7%を8.4ポイント上回る。
- ・ 2026年に124人微増し、2027年から減少に転じ、2030年から2032年はほぼ横ばいで推移し、翌2033年から減少傾向となる。
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.9%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、宮城県（2025年10,247人→2037年8,096人、2,151人減少）。

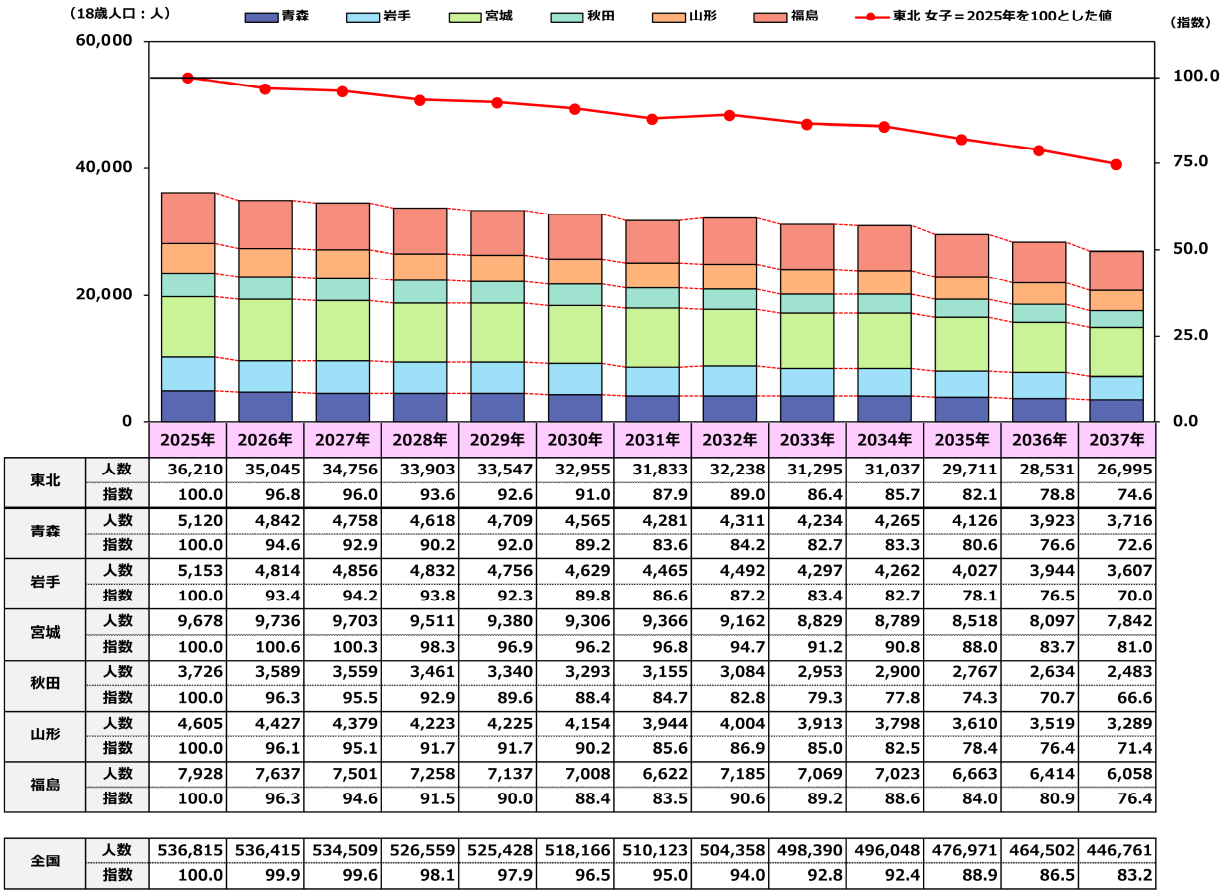


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：東北：2025～2037年）

■ 2025年36,210人→2037年26,995人（9,215人減少）

- ・ 女子は9,215人・25.4%減少し、全国の減少率16.8%を8.6ポイント上回る。
- ・ 2026年以降減少するが、2032年に405人増加。以降は減少傾向。
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.4%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、福島県（2025年7,928人→2037年6,058人、1,870人減少）。

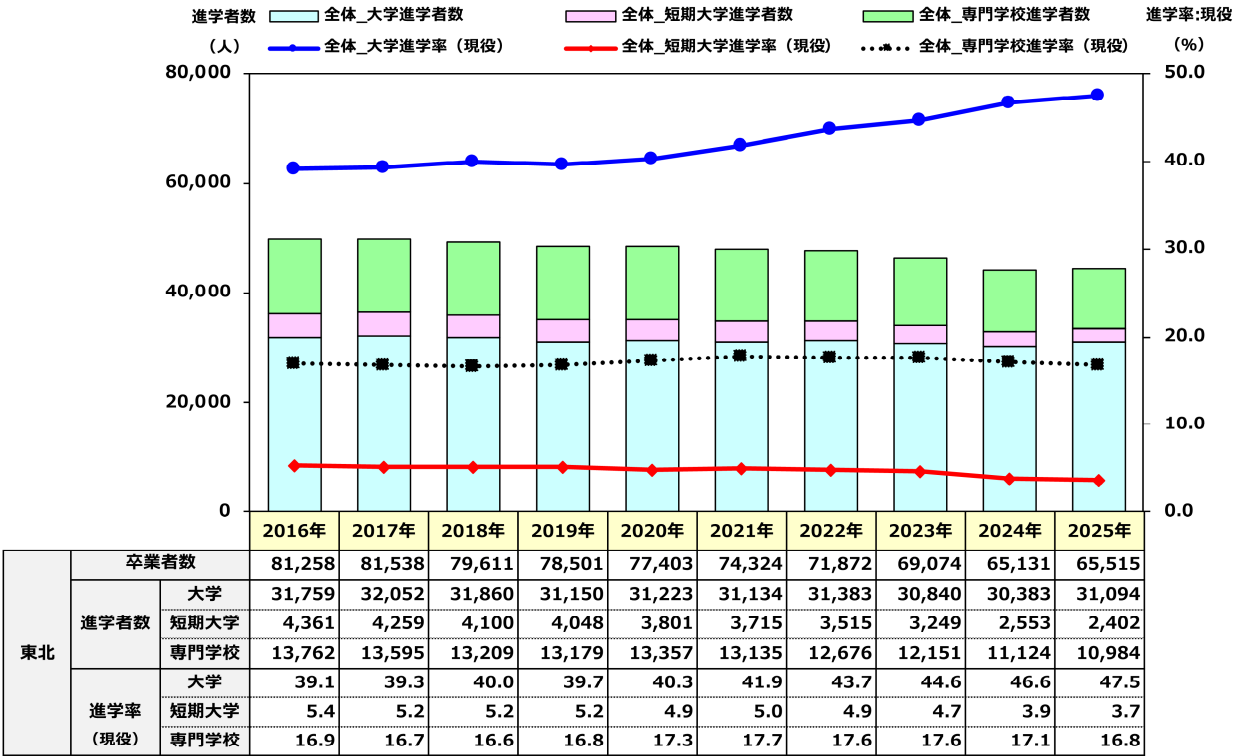


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：東北：2016～2025年）

■ 10年で大学進学率は8.4ポイント上昇しているが、進学者数は全校種で減少（合計5,402人減少）

- 進学者数**
- ・ 大学は、2016年31,759人→2025年31,094人（665人減少）と、2.1%減少。
 - ・ 短期大学は、2016年4,361人→2025年2,402人（1,959人減少）と、44.9%減少。
 - ・ 専門学校は、2016年13,762人→2025年10,984人（2,778人減少）と、20.2%減少。
- 進学率（現役）**
- ・ 大学は、2016年39.1%→2025年47.5（8.4ポイント上昇）。
 - ・ 短期大学は、2016年5.4%→2025年3.7%（1.7ポイント低下）。
 - ・ 専門学校は、2016年16.9%→2025年16.8%（0.1ポイント低下）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

- ・ 卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・ 進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ※専門学校＝専修学校専門課程

【資料1】

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2016～2025年）

			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
青森	卒業生数（人）		12,481	12,386	11,973	11,710	11,573	11,056	10,597	10,048	9,227	9,179
	進学者数 （人）	大学	4,526	4,583	4,741	4,580	4,617	4,672	4,737	4,598	4,387	4,450
		短期大学	679	672	607	598	534	519	497	481	379	326
		専門学校	1,868	1,828	1,696	1,703	1,785	1,754	1,677	1,511	1,318	1,369
	進学率 （%）	大学	36.3	37.0	39.6	39.1	39.9	42.3	44.7	45.8	47.5	48.5
		短期大学	5.4	5.4	5.1	5.1	4.6	4.7	4.7	4.8	4.1	3.6
		専門学校	15.0	14.8	14.2	14.5	15.4	15.9	15.8	15.0	14.3	14.9
岩手	卒業生数（人）		11,652	11,837	11,415	11,438	11,166	10,585	10,268	9,804	9,263	9,386
	進学者数 （人）	大学	4,267	4,375	4,320	4,244	4,284	4,138	4,085	4,064	4,070	4,174
		短期大学	658	565	549	541	532	469	491	402	343	333
		専門学校	2,166	2,013	2,251	2,203	2,163	2,021	2,155	1,856	1,656	1,744
	進学率 （%）	大学	36.6	37.0	37.8	37.1	38.4	39.1	39.8	41.5	43.9	44.5
		短期大学	5.6	4.8	4.8	4.7	4.8	4.4	4.8	4.1	3.7	3.5
		専門学校	18.6	17.0	19.7	19.3	19.4	19.1	21.0	18.9	17.9	18.6
宮城	卒業生数（人）		20,204	20,421	20,322	20,065	19,843	19,412	19,033	18,286	17,349	17,568
	進学者数 （人）	大学	9,005	9,027	8,943	8,851	8,811	8,871	9,194	9,057	8,855	9,158
		短期大学	756	801	851	849	846	921	788	777	545	544
		専門学校	3,029	3,134	3,224	3,332	3,454	3,396	3,228	3,135	3,006	2,778
	進学率 （%）	大学	44.6	44.2	44.0	44.1	44.4	45.7	48.3	49.5	51.0	52.1
		短期大学	3.7	3.9	4.2	4.2	4.3	4.7	4.1	4.2	3.1	3.1
		専門学校	15.0	15.3	15.9	16.6	17.4	17.5	17.0	17.1	17.3	15.8
秋田	卒業生数（人）		8,881	8,742	8,503	8,124	8,029	7,586	7,255	7,169	6,730	6,824
	進学者数 （人）	大学	3,246	3,244	3,231	3,064	3,039	3,064	2,924	2,906	2,903	2,911
		短期大学	620	601	522	530	455	475	466	409	326	318
		専門学校	1,571	1,446	1,408	1,359	1,372	1,349	1,217	1,306	1,174	1,187
	進学率 （%）	大学	36.5	37.1	38.0	37.7	37.9	40.4	40.3	40.5	43.1	42.7
		短期大学	7.0	6.9	6.1	6.5	5.7	6.3	6.4	5.7	4.8	4.7
		専門学校	17.7	16.5	16.6	16.7	17.1	17.8	16.8	18.2	17.4	17.4
山形	卒業生数（人）		10,398	10,248	10,108	10,005	9,995	9,555	9,169	8,948	8,385	8,556
	進学者数 （人）	大学	3,865	3,878	3,865	3,736	3,912	3,821	3,924	3,781	3,812	3,882
		短期大学	640	628	572	590	540	474	462	435	324	316
		専門学校	1,910	1,859	1,730	1,824	1,872	1,858	1,726	1,784	1,648	1,631
	進学率 （%）	大学	37.2	37.8	38.2	37.3	39.1	40.0	42.8	42.3	45.5	45.4
		短期大学	6.2	6.1	5.7	5.9	5.4	5.0	5.0	4.9	3.9	3.7
		専門学校	18.4	18.1	17.1	18.2	18.7	19.4	18.8	19.9	19.7	19.1
福島	卒業生数（人）		17,642	17,904	17,290	17,159	16,797	16,130	15,550	14,819	14,177	14,002
	進学者数 （人）	大学	6,850	6,945	6,760	6,675	6,560	6,568	6,519	6,434	6,356	6,519
		短期大学	1,008	992	999	940	894	857	811	745	636	565
		専門学校	3,218	3,315	2,900	2,758	2,711	2,757	2,673	2,559	2,322	2,275
	進学率 （%）	大学	38.8	38.8	39.1	38.9	39.1	40.7	41.9	43.4	44.8	46.6
		短期大学	5.7	5.5	5.8	5.5	5.3	5.3	5.2	5.0	4.5	4.0
		専門学校	18.2	18.5	16.8	16.1	16.1	17.1	17.2	17.3	16.4	16.2

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：東北：2016～2025年）

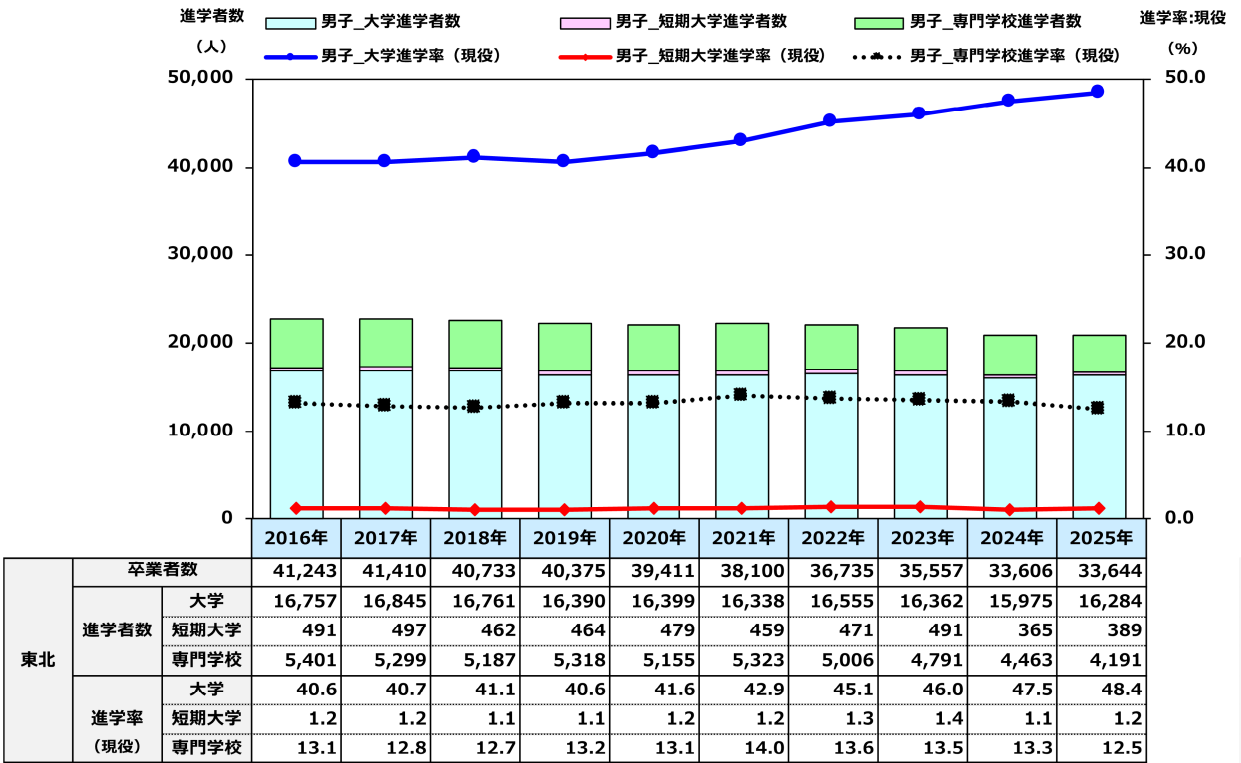
■男子では、大学進学率は7.8ポイント上昇、短期大学進学率は変動なし、専門学校進学率は0.6ポイント低下。進学者数は全校種で減少している（合計1,785人減少）

進学者数

- ・大学は、2016年16,757人→2025年16,284人（473人減少）と、2.8%減少。
- ・短期大学は、2016年491人→2025年389人（102人減少）と、20.8%減少。
- ・専門学校は、2016年5,401人→2025年4,191人（1,210人減少）と、22.4%減少。

進学率（現役）

- ・大学は、2016年40.6%→2025年48.4%（7.8ポイント上昇）。
- ・短期大学は、2016年1.2%→2025年1.2%（変動なし）。
- ・専門学校は、2016年13.1%→2025年12.5%（0.6ポイント低下）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
※専門学校＝専修学校専門課程

【資料1】

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：県別：2016～2025年）

			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
青森	卒業生数（人）		6,344	6,237	6,117	5,993	5,975	5,763	5,434	5,181	4,763	4,679
	進学者数 （人）	大学	2,356	2,376	2,481	2,430	2,469	2,464	2,484	2,431	2,305	2,308
		短期大学	69	73	79	81	77	75	85	89	62	67
		専門学校	683	665	621	626	659	671	609	553	517	485
	進学率 （％）	大学	37.1	38.1	40.6	40.5	41.3	42.8	45.7	46.9	48.4	49.3
		短期大学	1.1	1.2	1.3	1.4	1.3	1.3	1.6	1.7	1.3	1.4
		専門学校	10.8	10.7	10.2	10.4	11.0	11.6	11.2	10.7	10.9	10.4
岩手	卒業生数（人）		5,951	6,071	5,860	5,960	5,678	5,413	5,360	5,008	4,741	4,825
	進学者数 （人）	大学	2,230	2,248	2,229	2,198	2,213	2,123	2,138	2,054	2,047	2,131
		短期大学	131	99	99	89	108	97	102	106	74	86
		専門学校	949	832	942	933	841	804	903	741	653	681
	進学率 （％）	大学	37.5	37.0	38.0	36.9	39.0	39.2	39.9	41.0	43.2	44.2
		短期大学	2.2	1.6	1.7	1.5	1.9	1.8	1.9	2.1	1.6	1.8
		専門学校	15.9	13.7	16.1	15.7	14.8	14.9	16.8	14.8	13.8	14.1
宮城	卒業生数（人）		10,210	10,336	10,372	10,169	10,082	9,921	9,686	9,382	8,861	9,061
	進学者数 （人）	大学	4,708	4,722	4,693	4,613	4,646	4,719	4,887	4,872	4,610	4,786
		短期大学	78	110	78	84	99	97	84	129	89	102
		専門学校	1,153	1,233	1,280	1,330	1,334	1,411	1,247	1,204	1,196	1,052
	進学率 （％）	大学	46.1	45.7	45.2	45.4	46.1	47.6	50.5	51.9	52.0	52.8
		短期大学	0.8	1.1	0.8	0.8	1.0	1.0	0.9	1.4	1.0	1.1
		専門学校	11.3	11.9	12.3	13.1	13.2	14.2	12.9	12.8	13.5	11.6
秋田	卒業生数（人）		4,437	4,416	4,351	4,177	4,045	3,841	3,703	3,705	3,454	3,505
	進学者数 （人）	大学	1,719	1,711	1,675	1,580	1,550	1,586	1,543	1,552	1,506	1,511
		短期大学	67	71	70	70	63	60	63	58	42	46
		専門学校	584	529	518	536	545	515	457	495	445	445
	進学率 （％）	大学	38.7	38.7	38.5	37.8	38.3	41.3	41.7	41.9	43.6	43.1
		短期大学	1.5	1.6	1.6	1.7	1.6	1.6	1.7	1.6	1.2	1.3
		専門学校	13.2	12.0	11.9	12.8	13.5	13.4	12.3	13.4	12.9	12.7
山形	卒業生数（人）		5,328	5,218	5,181	5,129	5,081	4,926	4,661	4,636	4,362	4,404
	進学者数 （人）	大学	2,041	2,064	2,017	1,956	2,067	1,995	2,040	2,011	2,030	2,063
		短期大学	66	85	56	73	62	46	62	54	55	37
		専門学校	766	695	690	705	669	750	695	736	672	635
	進学率 （％）	大学	38.3	39.6	38.9	38.1	40.7	40.5	43.8	43.4	46.5	46.8
		短期大学	1.2	1.6	1.1	1.4	1.2	0.9	1.3	1.2	1.3	0.8
		専門学校	14.4	13.3	13.3	13.7	13.2	15.2	14.9	15.9	15.4	14.4
福島	卒業生数（人）		8,973	9,132	8,852	8,947	8,550	8,236	7,891	7,645	7,425	7,170
	進学者数 （人）	大学	3,703	3,724	3,666	3,613	3,454	3,451	3,463	3,442	3,477	3,485
		短期大学	80	59	80	67	70	84	75	55	43	51
		専門学校	1,266	1,345	1,136	1,188	1,107	1,172	1,095	1,062	980	893
	進学率 （％）	大学	41.3	40.8	41.4	40.4	40.4	41.9	43.9	45.0	46.8	48.6
		短期大学	0.9	0.6	0.9	0.7	0.8	1.0	1.0	0.7	0.6	0.7
		専門学校	14.1	14.7	12.8	13.3	12.9	14.2	13.9	13.9	13.2	12.5

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：東北：2016～2025年）

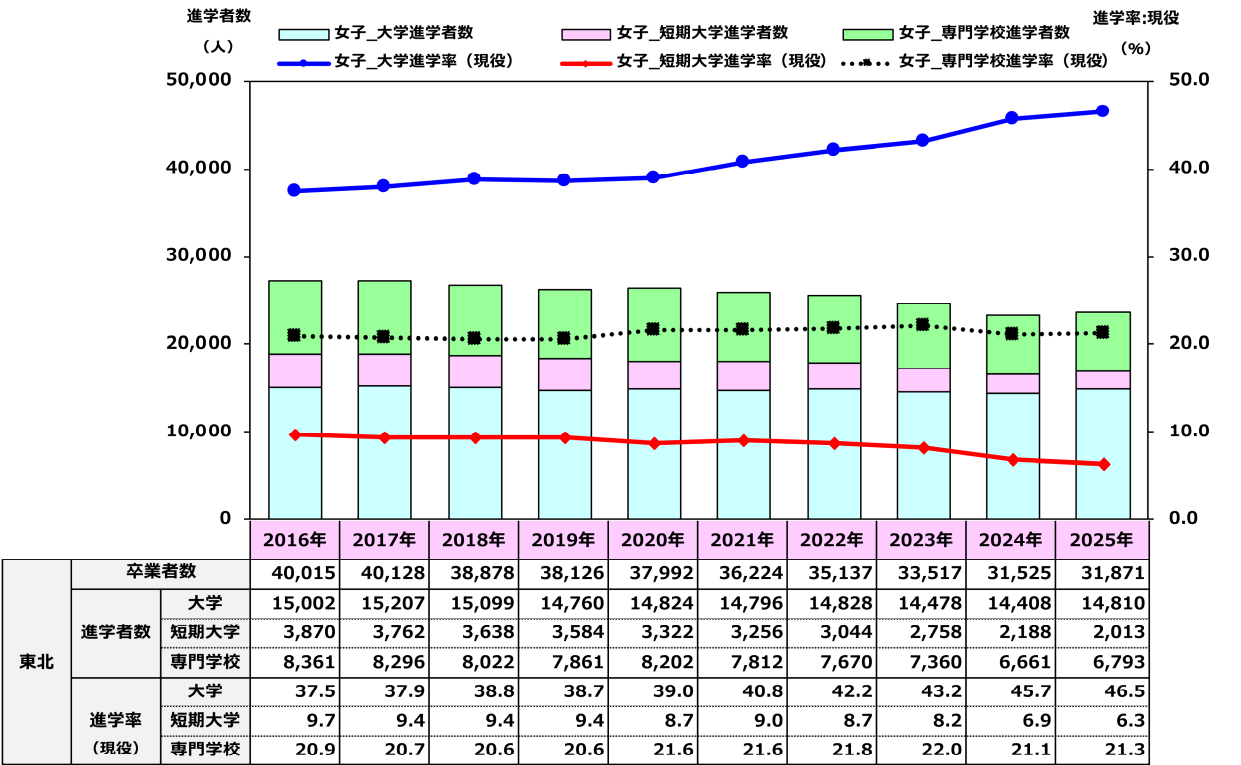
■女子では、大学進学率は9.0ポイント上昇、短期大学進学率は3.4ポイント低下、専門学校進学率は0.4ポイント上昇。進学者数は全校種で減少している（合計3,617人減少）

進学者数

- ・大学は、2016年15,002人→2025年14,810人（192人減少）と、1.3%減少。
- ・短期大学は、2016年3,870人→2025年2,013人（1,857人減少）と、48.0%減少。
- ・専門学校は、2016年8,361人→2025年6,793人（1,568人減少）と、18.8%減少。

進学率（現役）

- ・大学は、2016年37.5%→2025年46.5%（9.0ポイント上昇）。
- ・短期大学は、2016年9.7%→2025年6.3%（3.4ポイント低下）。
- ・専門学校は、2016年20.9%→2025年21.3%（0.4ポイント上昇）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
※専門学校＝専修学校専門課程

【資料1】

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：県別：2016～2025年）

			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
青森	卒業生数（人）		6,137	6,149	5,856	5,717	5,598	5,293	5,163	4,867	4,464	4,500
	進学者数（人）	大学	2,170	2,207	2,260	2,150	2,148	2,208	2,253	2,167	2,082	2,142
		短期大学	610	599	528	517	457	444	412	392	317	259
		専門学校	1,185	1,163	1,075	1,077	1,126	1,083	1,068	958	801	884
	進学率（％）	大学	35.4	35.9	38.6	37.6	38.4	41.7	43.6	44.5	46.6	47.6
		短期大学	9.9	9.7	9.0	9.0	8.2	8.4	8.0	8.1	7.1	5.8
		専門学校	19.3	18.9	18.4	18.8	20.1	20.5	20.7	19.7	17.9	19.6
岩手	卒業生数（人）		5,701	5,766	5,555	5,478	5,488	5,172	4,908	4,796	4,522	4,561
	進学者数（人）	大学	2,037	2,127	2,091	2,046	2,071	2,015	1,947	2,010	2,023	2,043
		短期大学	527	466	450	452	424	372	389	296	269	247
		専門学校	1,217	1,181	1,309	1,270	1,322	1,217	1,252	1,115	1,003	1,063
	進学率（％）	大学	35.7	36.9	37.6	37.3	37.7	39.0	39.7	41.9	44.7	44.8
		短期大学	9.2	8.1	8.1	8.3	7.7	7.2	7.9	6.2	5.9	5.4
		専門学校	21.3	20.5	23.6	23.2	24.1	23.5	25.5	23.2	22.2	23.3
宮城	卒業生数（人）		9,994	10,085	9,950	9,896	9,761	9,491	9,347	8,904	8,488	8,507
	進学者数（人）	大学	4,297	4,305	4,250	4,238	4,165	4,152	4,307	4,185	4,245	4,372
		短期大学	678	691	773	765	747	824	704	648	456	442
		専門学校	1,876	1,901	1,944	2,002	2,120	1,985	1,981	1,931	1,810	1,726
	進学率（％）	大学	43.0	42.7	42.7	42.8	42.7	43.7	46.1	47.0	50.0	51.4
		短期大学	6.8	6.9	7.8	7.7	7.7	8.7	7.5	7.3	5.4	5.2
		専門学校	18.8	18.8	19.5	20.2	21.7	20.9	21.2	21.7	21.3	20.3
秋田	卒業生数（人）		4,444	4,326	4,152	3,947	3,984	3,745	3,552	3,464	3,276	3,319
	進学者数（人）	大学	1,527	1,533	1,556	1,484	1,489	1,478	1,381	1,354	1,397	1,400
		短期大学	553	530	452	460	392	415	403	351	284	272
		専門学校	987	917	890	823	827	834	760	811	729	742
	進学率（％）	大学	34.4	35.4	37.5	37.6	37.4	39.5	38.9	39.1	42.6	42.2
		短期大学	12.4	12.3	10.9	11.7	9.8	11.1	11.3	10.1	8.7	8.2
		専門学校	22.2	21.2	21.4	20.9	20.8	22.3	21.4	23.4	22.3	22.4
山形	卒業生数（人）		5,070	5,030	4,927	4,876	4,914	4,629	4,508	4,312	4,023	4,152
	進学者数（人）	大学	1,824	1,814	1,848	1,780	1,845	1,826	1,884	1,770	1,782	1,819
		短期大学	574	543	516	517	478	428	400	381	269	279
		専門学校	1,144	1,164	1,040	1,119	1,203	1,108	1,031	1,048	976	996
	進学率（％）	大学	36.0	36.1	37.5	36.5	37.5	39.4	41.8	41.0	44.3	43.8
		短期大学	11.3	10.8	10.5	10.6	9.7	9.2	8.9	8.8	6.7	6.7
		専門学校	22.6	23.1	21.1	22.9	24.5	23.9	22.9	24.3	24.3	24.0
福島	卒業生数（人）		8,669	8,772	8,438	8,212	8,247	7,894	7,659	7,174	6,752	6,832
	進学者数（人）	大学	3,147	3,221	3,094	3,062	3,106	3,117	3,056	2,992	2,879	3,034
		短期大学	928	933	919	873	824	773	736	690	593	514
		専門学校	1,952	1,970	1,764	1,570	1,604	1,585	1,578	1,497	1,342	1,382
	進学率（％）	大学	36.3	36.7	36.7	37.3	37.7	39.5	39.9	41.7	42.6	44.4
		短期大学	10.7	10.6	10.9	10.6	10.0	9.8	9.6	9.6	8.8	7.5
		専門学校	22.5	22.5	20.9	19.1	19.4	20.1	20.6	20.9	19.9	20.2

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

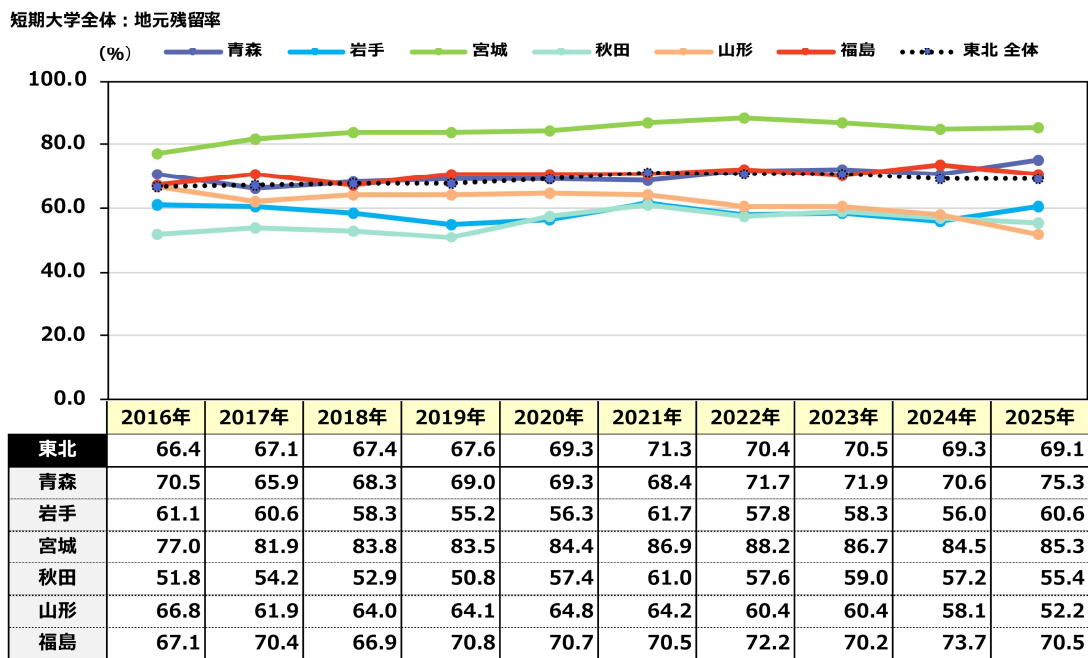
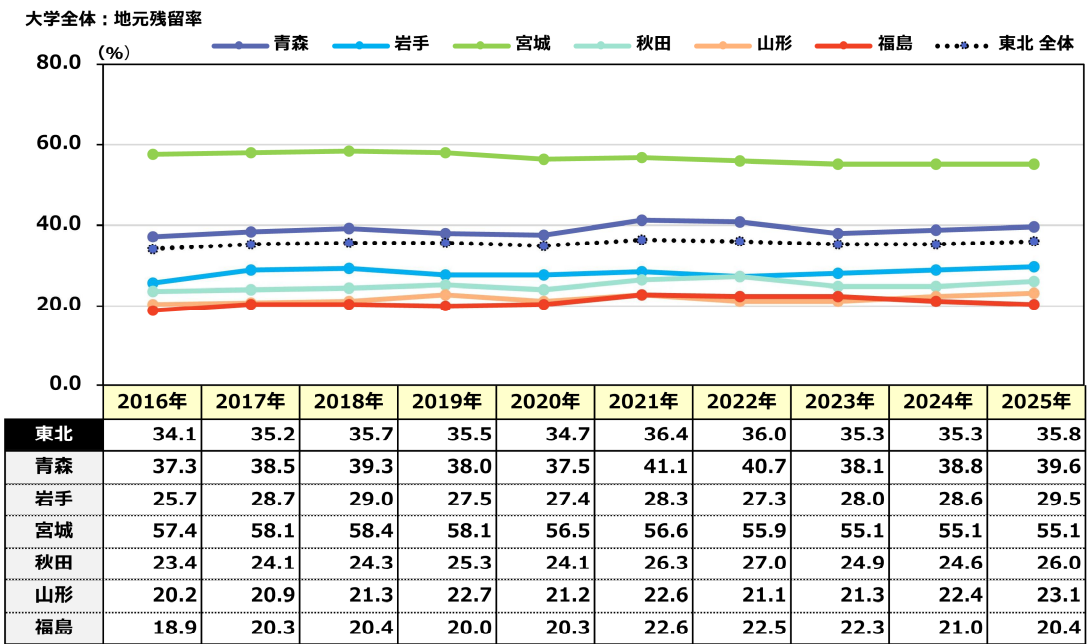
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

※専門学校＝専修学校専門課程

地元残留率の推移（全体：東北：2016～2025年）

■ 大学は、2016年34.1%→2025年35.8%（1.7ポイント上昇）
短期大学は、2016年66.4%→2025年69.1%（2.7ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、岩手県（2016年25.7%→2025年29.5%、3.8ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、宮城県（2016年77.0%→2025年85.3%、8.3ポイント上昇）。

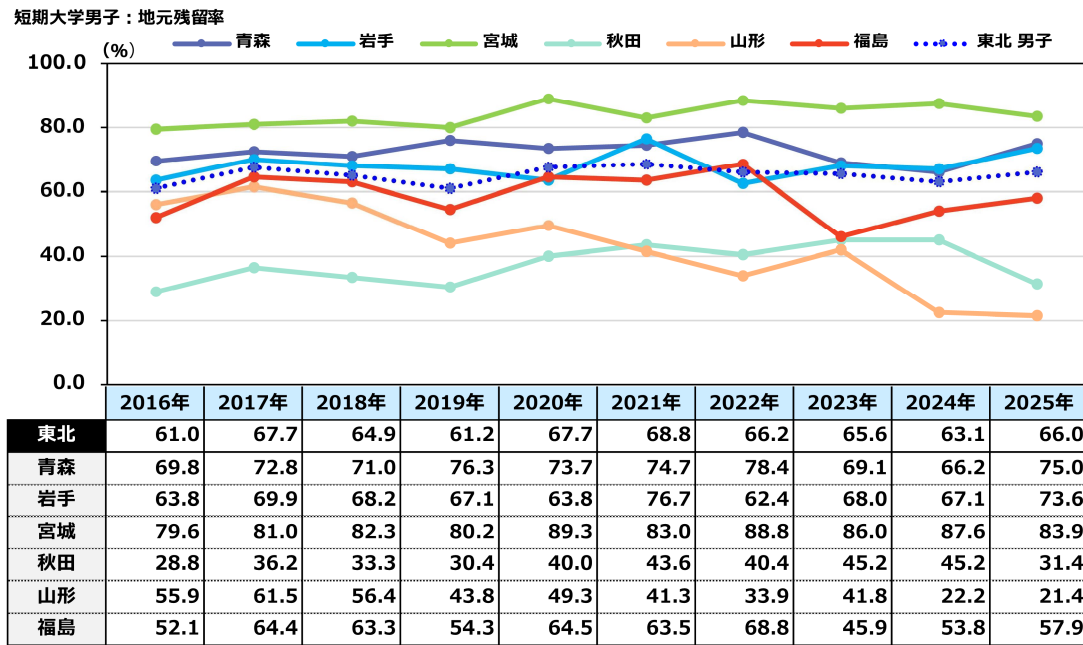
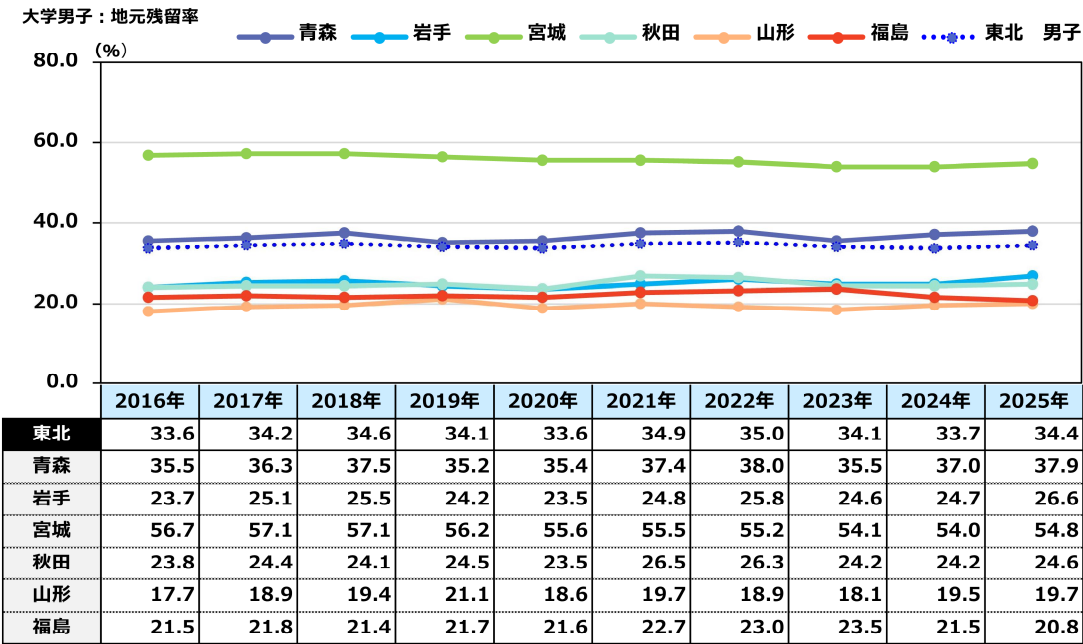


※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移（男子：東北：2016～2025年）

■大学は、2016年33.6%→2025年34.4%（0.8ポイント上昇）
短期大学は、2016年61.0%→2025年66.0%（5.0ポイント上昇）

- ・大学で上昇率が高いのは、岩手県（2016年23.7%→2025年26.6%、2.9ポイント上昇）。
- ・短期大学で上昇率が高いのも、岩手県（2016年63.8%→2025年73.6%、9.8ポイント上昇）。

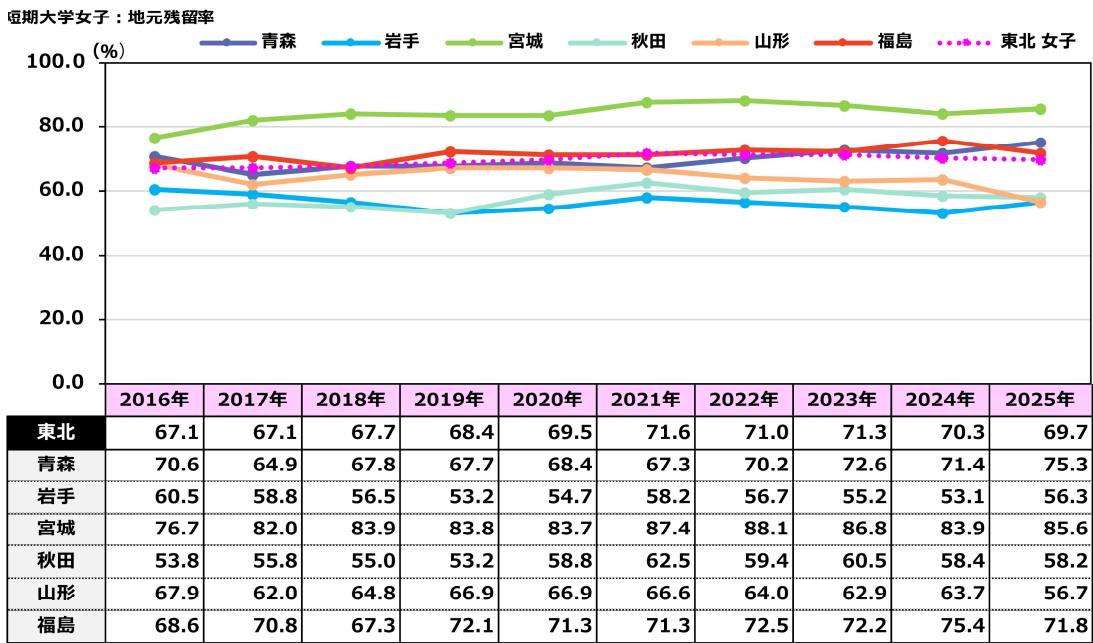
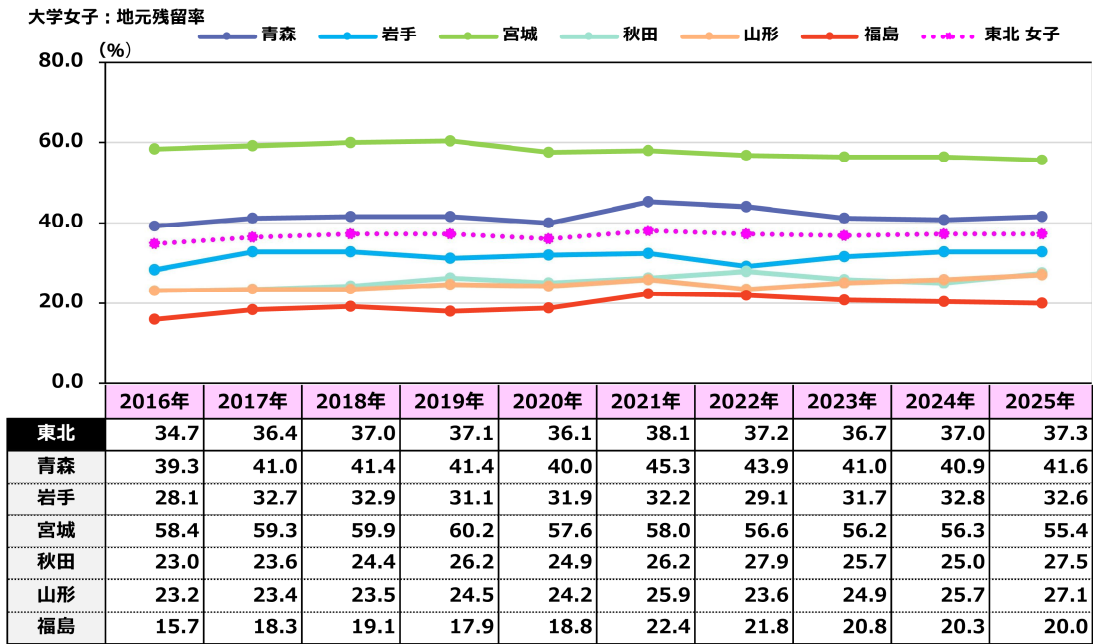


※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移（女子：東北：2016～2025年）

■大学は、2016年34.7%→2025年37.3%（2.6ポイント上昇）
短期大学は、2016年67.1%→2025年69.7%（2.6ポイント上昇）

- ・大学で上昇率が高いのは、岩手県（2016年28.1%→2025年32.6%、4.5ポイント上昇）、秋田県（2016年23.0%→2025年27.5%、4.5ポイント上昇）。
- ・短期大学で上昇率が高いのは、宮城県（2016年76.7%→2025年85.6%、8.9ポイント上昇）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

東北エリア概要（全体：県別）

青森県



学校数

大学 : 10 (国立 1・公立 2・私立 7)
短期大学 : 5 (私立 5)
専門学校 : 22 (公立 4・私立 18)

卒業者数

2016年12,481人→2025年9,179人 (3,302人減少)

進学者数

大学 : 2016年4,526人→2025年4,450人 (76人減少)
短期大学 : 2016年 679人→2025年 326人 (353人減少)
専門学校 : 2016年1,868人→2025年1,369人 (499人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年36.3%→2025年48.5% (12.2ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 5.4%→2025年 3.6% (1.8ポイント低下)
専門学校 : 2016年15.0%→2025年14.9% (0.1ポイント低下)

残留率

大学 : 2016年37.3%→2025年39.6% (2.3ポイント上昇)
短期大学 : 2016年70.5%→2025年75.3% (4.8ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位北海道 (424人)、2位岩手 (249人)、3位秋田 (185人)
短期大学 : 1位秋田 (19人)、2位岩手 (18人)、3位宮城 (2人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (590人)、2位宮城 (570人)、3位北海道 (317人)
短期大学 : 1位宮城 (33人)、2位山形 (11人)、3位東京 (9人)

学校数

大学 : 6 (国立 1・公立 1・私立 4)
短期大学 : 4 (公立 2・私立 2)
専門学校 : 31 (公立 4・私立 27)

卒業者数

2016年11,652人→2025年9,386人 (2,266人減少)

進学者数

大学 : 2016年4,267人→2025年4,174人 (93人減少)
短期大学 : 2016年 658人→2025年 333人 (325人減少)
専門学校 : 2016年2,166人→2025年1,744人 (422人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年36.6%→2025年44.5% (7.9ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 5.6%→2025年 3.5% (2.1ポイント低下)
専門学校 : 2016年18.6%→2025年18.6% (変動なし)

残留率

大学 : 2016年25.7%→2025年29.5% (3.8ポイント上昇)
短期大学 : 2016年61.1%→2025年60.6% (0.5ポイント低下)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位青森 (221人)、2位宮城 (220人)、3位秋田 (126人)
短期大学 : 1位秋田 (17人)、2位宮城 (11人)、3位青森 (7人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位宮城 (847人)、2位東京 (519人)、3位青森 (249人)
短期大学 : 1位宮城 (60人)、2位青森 (18人)、3位東京 (16人)

岩手県



- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地（2024年学校基本調査より）
- ・卒業者数 : 高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部卒業者）
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・進学率（現役） : 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ・残留率 : 自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
- ・流入 : 自県内（地元）の大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学者したこと（浪人含）
- ・流出 : 自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学者のこと（浪人含）

※専門学校＝専修学校専門課程

東北エリア概要（全体：県別）

宮城県



学校数

大学 : 15 (国立 2・公立 1・私立 12)
短期大学 : 5 (私立 5)
専門学校 : 60 (公立 2・私立 58)

卒業者数

2016年20,204人→2025年17,568人 (2,636人減少)

進学者数

大学 : 2016年9,005人→2025年9,158人 (153人増加)
短期大学 : 2016年 756人→2025年 544人 (212人減少)
専門学校 : 2016年3,029人→2025年2,778人 (251人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年44.6%→2025年52.1% (7.5ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 3.7%→2025年 3.1% (0.6ポイント低下)
専門学校 : 2016年15.0%→2025年15.8% (0.8ポイント上昇)

残留率

大学 : 2016年57.4%→2025年55.1% (2.3ポイント低下)
短期大学 : 2016年77.0%→2025年85.3% (8.3ポイント上昇)

入学者流入元

※地元は除く

大学 : 1位福島 (994人)、2位岩手 (847人)、3位山形 (785人)
短期大学 : 1位山形 (91人)、2位福島 (68人)、3位岩手 (60人)

入学者流出先

※地元は除く

大学 : 1位東京 (1,284人)、2位山形 (665人)、3位神奈川 (400人)
短期大学 : 1位東京 (22人)、2位山形 (13人)、3位岩手 (11人)

秋田県



学校数

大学 : 7 (国立 1・公立 3・私立 3)
短期大学 : 4 (私立 4)
専門学校 : 13 (公立 1・私立 12)

卒業者数

2016年8,881人→2025年6,824人 (2,057人減少)

進学者数

大学 : 2016年3,246人→2025年2,911人 (335人減少)
短期大学 : 2016年 620人→2025年 318人 (302人減少)
専門学校 : 2016年1,571人→2025年1,187人 (384人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年36.5%→2025年42.7% (6.2ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 7.0%→2025年 4.7% (2.3ポイント低下)
専門学校 : 2016年17.7%→2025年17.4% (0.3ポイント低下)

残留率

大学 : 2016年23.4%→2025年26.0% (2.6ポイント上昇)
短期大学 : 2016年51.8%→2025年55.4% (3.6ポイント上昇)

入学者流入元

※地元は除く

大学 : 1位岩手 (105人)、2位宮城 (100人)、3位東京 (82人)
短期大学 : 1位北海道 (3人)、3位山形・東京 (2人)

入学者流出先

※地元は除く

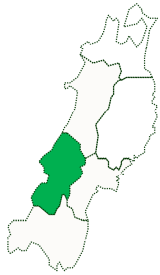
大学 : 1位宮城 (496人)、2位東京 (383人)、3位青森 (185人)
短期大学 : 1位宮城 (43人)、2位山形 (26人)、3位青森 (19人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地（2024年学校基本調査より）
- ・卒業者数 : 高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部卒業者）
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・進学率（現役） : 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ・残留率 : 自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
- ・流入 : 自県内（地元）の大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと（浪人含）
- ・流出 : 自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学したこと（浪人含）

※専門学校＝専修学校専門課程

東北エリア概要（全体：県別）

山形県



学校数	
大学	: 8 (国立 1・公立 3・私立 4)
短期大学	: 3 (公立 1・私立 2)
専門学校	: 18 (公立 4・私立 14)
卒業者数	2016年10,398人→2025年8,556人 (1,842人減少)
進学者数	
大学	: 2016年3,865人→2025年3,882人 (17人増加)
短期大学	: 2016年 640人→2025年 316人 (324人減少)
専門学校	: 2016年1,910人→2025年1,631人 (279人減少)
進学率（現役）	
大学	: 2016年37.2%→2025年45.4% (8.2ポイント上昇)
短期大学	: 2016年 6.2%→2025年 3.7% (2.5ポイント低下)
専門学校	: 2016年18.4%→2025年19.1% (0.7ポイント上昇)
残留率	
大学	: 2016年20.2%→2025年23.1% (2.9ポイント上昇)
短期大学	: 2016年66.8%→2025年52.2% (14.6ポイント低下)
入学者流入元	※地元は除く
大学	: 1位宮城 (665人)、2位福島 (201人)、3位岩手 (144人)
短期大学	: 1位福島 (29人)、2位秋田 (26人)、3位新潟 (15人)
入学者流出先	※地元は除く
大学	: 1位宮城 (785人)、2位東京 (577人)、3位新潟 (332人)
短期大学	: 1位宮城 (91人)、2位福島 (15人)、3位北海道・埼玉・東京・新潟 (6人)

福島県



学校数	
大学	: 8 (国立 1・公立 2・私立 5)
短期大学	: 5 (公立 1・私立 4)
専門学校	: 34 (公立 4・私立 30)
卒業者数	2016年17,642人→2025年14,002人 (3,640人減少)
進学者数	
大学	: 2016年6,850人→2025年6,519人 (331人減少)
短期大学	: 2016年1,008人→2025年 565人 (443人減少)
専門学校	: 2016年3,218人→2025年2,275人 (943人減少)
進学率（現役）	
大学	: 2016年38.8%→2025年46.6% (7.8ポイント上昇)
短期大学	: 2016年 5.7%→2025年 4.0% (1.7ポイント低下)
専門学校	: 2016年18.2%→2025年16.2% (2.0ポイント低下)
残留率	
大学	: 2016年18.9%→2025年20.4% (1.5ポイント上昇)
短期大学	: 2016年67.1%→2025年70.5% (3.4ポイント上昇)
入学者流入元	※地元は除く
大学	: 1位宮城 (244人)、2位茨城 (225人)、3位栃木 (184人)
短期大学	: 1位山形 (15人)、2位岩手 (10人)、3位秋田 (7人)
入学者流出先	※地元は除く
大学	: 1位東京 (1,458人)、2位宮城 (994人)、3位神奈川 (522人)
短期大学	: 1位宮城 (68人)、2位山形 (29人)、3位埼玉・東京 (20人)

・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地（2024年学校基本調査より）
・卒業者数 : 高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部卒業者）
・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役） : 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・残留率 : 自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
・流入 : 自県内（地元）の大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学者のこと（浪人含）
・流出 : 自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学者のこと（浪人含）
※専門学校＝専修学校専門課程

【資料2】

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	青森県	952人	83.0%
2	岩手県	79人	6.9%
3	秋田県	57人	5.0%
4	北海道	41人	3.6%
5	宮城県	18人	1.6%
	全 体	1,147人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 （都道府県等）	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	青森県	89.10%	88.30%	87.10%
2				

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	理・工学系			
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

別紙 2 の 1

【資料4】

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2の2－1

大学学部学科等名：八戸工業大学工学部工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人員	49人	49人	49人	49人	49人	49人
	延べ人数	109人	92人	60人	74人	93人	86人
		109人	92人	60人	73人	93人	85人
		106人	87人	60人	72人	93人	84人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	1人	3人	1人
	実人数	109人	92人	60人	74人	93人	86人
		109人	92人	60人	73人	93人	85人
		106人	87人	60人	72人	93人	84人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	0人	0人	2人	3人	1人
	入学者数	104人	86人	57人	69人	87人	81人
学校推薦型選抜	募集人員	67人	67人	67人	67人	67人	67人
	延べ人数	69人	83人	66人	52人	59人	66人
		69人	83人	65人	52人	59人	66人
		69人	83人	65人	52人	59人	66人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	69人	83人	66人	52人	59人	66人
		69人	83人	65人	52人	59人	66人
		69人	83人	65人	52人	59人	66人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	68人	83人	64人	51人	57人	65人
一般選抜	募集人員	58人	58人	58人	58人	58人	58人
	延べ人数	58人	74人	60人	28人	36人	51人
		57人	73人	58人	25人	36人	50人
		54人	71人	54人	22人	34人	47人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	3人	0人	2人	1人
	実人数	58人	74人	60人	28人	36人	51人
		57人	73人	58人	25人	36人	50人
		54人	71人	54人	22人	34人	47人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		6人	6人	6人	0人	6人	5人
	入学者数	25人	30人	12人	6人	14人	17人
共通テスト利用入試	募集人員	76人	76人	76人	76人	76人	76人
	延べ人数	187人	165人	126人	86人	84人	130人
		187人	165人	126人	86人	83人	129人
		183人	162人	126人	86人	80人	127人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		3人	4人	8人	4人	2人	4人
	実人数	187人	165人	126人	86人	84人	130人
		187人	165人	126人	86人	83人	129人
		183人	162人	126人	86人	80人	127人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		13人	12人	10人	6人	11人	10人
	入学者数	64人	36人	29人	22人	23人	35人
その他の特別選抜	募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	2人	2人	2人	1人	1人
		0人	2人	2人	1人	1人	1人
		0人	1人	2人	1人	1人	1人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	2人	2人	2人	1人	1人
		0人	2人	2人	1人	1人	1人
		0人	1人	2人	1人	1人	1人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	1人	2人	1人	1人	1人
合計	募集人員	250人	250人	250人	250人	250人	250人
	延べ人数	423人	416人	314人	242人	273人	334人
		422人	415人	311人	237人	272人	331人
		412人	404人	307人	233人	267人	325人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		4人	5人	11人	5人	8人	7人
	実人数	423人	416人	314人	242人	273人	334人
		422人	415人	311人	237人	272人	331人
		412人	404人	307人	233人	267人	325人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		20人	18人	16人	8人	21人	17人
	入学者数	261人	236人	164人	149人	182人	198人

2. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	250人	250人	250人	250人	250人	250人
入 学 定 員 充 足 率	1.04	0.94	0.66	0.60	0.73	0.79
歩 留 率	0.63	0.58	0.53	0.64	0.68	0.61

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

【資料4】

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2の2-2

大学学部学科等名：八戸工業大学工学部感性デザイン学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人員	11人	11人	11人	11人	11人	11人
	延べ人数	29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数	29人	9人	16人	14人	16人	17人
学校推薦型選抜	募集人員	13人	13人	13人	13人	13人	13人
	延べ人数	8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	8人	17人	5人	17人	10人	11人
一般選抜	募集人員	12人	12人	12人	12人	12人	12人
	延べ人数	13人	8人	6人	3人	4人	7人
		13人	8人	6人	3人	4人	7人
		12人	7人	6人	3人	4人	6人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	13人	8人	6人	3人	4人	7人
		13人	8人	6人	3人	4人	7人
		12人	7人	6人	3人	4人	6人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		3人	1人	2人	0人	0人	1人
	入学者数	7人	3人	0人	1人	3人	3人
共通テスト利用入試	募集人員	14人	14人	14人	14人	14人	14人
	延べ人数	17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	12人	16人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	12人	16人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	0人	0人	2人	1人
	入学者数	9人	10人	5人	4人	4人	6人
その他の特別選抜	募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人員	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	67人	62人	42人	46人	44人	52人
		67人	62人	42人	46人	44人	52人
		66人	60人	42人	46人	42人	51人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	67人	62人	42人	46人	44人	52人
		67人	62人	42人	46人	44人	52人
		66人	60人	42人	46人	42人	51人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		4人	2人	2人	1人	2人	2人
	入学者数	53人	39人	26人	36人	33人	37人

2. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	50人	50人	50人	50人	50人	50人
入学定員充足率	1.06	0.78	0.52	0.72	0.66	0.75
歩留率	0.80	0.65	0.62	0.78	0.79	0.73

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

八戸工業大学
「先進工学部 先進工学科」(仮称)
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和 8 年 3 月
株式会社システム環境研究所

調査概要

調査目的

令和9年4月開設予定の八戸工業大学「先進工学部 先進工学科（仮称）」の設置構想に関して、高校生からの進学需要を把握する。

調査概要

- 調査対象：受験実績や入学実績のある高等学校
- 調査地域：青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
- 調査方法：高等学校留め置き
- 調査時期：令和7年10月～令和8年1月
- 回収校数：2年生／29校
1年生／31校
- 集計人数：2年生／3,083人
1年生／2,932人

調査項目

- 学年
- 卒業後の進路
- 進学を希望する場合の大学等の設置者
- 興味のある学問分野
- 新設組織の受験希望
- 新設組織に合格した場合の入学希望

【資料5】

学年

学年

○学年について、「1年生」と回答した者が2,932人、「2年生」と回答した者が3,083人となっている。

問1 学年

【設問】

学年

No.	カテゴリ	件数／人
1	1年生	2,932
2	2年生	3,083

【2年生】卒業後の進路

卒業後の進路

○卒業後の進路について、「大学」と回答した者が総回答数 3,929 人の約 41.8%にあたる 1,644 人、「短期大学」と回答した者が総回答数 3,929 人の約 9.0%にあたる 353 人、「専門職大学」と回答した者が総回答数 3,929 人の約 8.4%にあたる 329 人、「専門職短期大学」と回答した者が総回答数 3,929 人の約 4.0%にあたる 159 人となっている。

問2 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学	1,644	41.8
2	短期大学	353	9.0
3	専門職大学	329	8.4
4	専門職短期大学	159	4.0
5	専門学校	599	15.2
6	就職	795	20.2
7	その他	43	1.1
	未回答・不明	7	0.2
	合計	3,929	100.0

注)総回答数に対する割合

【2年生】進学を希望する場合の大学等の設置者

進学を希望する場合の大学等の設置者

○進学を希望する場合の大学等の設置者について、「国立」と回答した者が総回答数 2,829 人の約 38.1%にあたる 1,079 人、「公立」と回答した者が総回答数 2,829 人の約 36.5%にあたる 1,033 人、「私立」と回答した者が総回答数 2,829 人の約 24.7%にあたる 698 人となっている。

問3 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

上記設問のうち、①～④を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	国立	1,079	38.1
2	公立	1,033	36.5
3	私立	698	24.7
	未回答・不明	19	0.7
	合計	2,829	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

注) 総回答数に対する割合

【2年生】興味のある学問分野

興味のある学問分野

○高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野について、新設組織に該当する学問分野である「機械工学（機械工学・交通機械学・ロボット工学）」と回答した者は総回答数 3,639 人の約 9.6%にあたる 349 人、「電気通信工学（電子通信工学）」と回答した者は総回答数 3,639 人の約 9.5%にあたる 347 人、「環境・エネルギー工学」と回答した者は総回答数 3,639 人の約 8.2%にあたる 300 人となっている。

問4 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	文学・史学・哲学等	196	5.4
2	法学・政治学	150	4.1
3	商学・経済学	284	7.8
4	社会学	141	3.9
5	数学・物理・化学・生物等	226	6.2
6	機械工学（機械工学・交通機械学・ロボット工学）	349	9.6
7	電気通信工学（電子通信工学）	347	9.5
8	土木建築工学	367	10.1
9	環境・エネルギー工学	300	8.2
10	農学・農芸化学等	97	2.7
11	医学・歯学等	163	4.5
12	薬学・看護等	199	5.5
13	家政学・食物学・住居学等	109	3.0
14	教育学	255	7.0
15	美術・デザイン・音楽等	282	7.7
16	その他	167	4.6
	未回答・不明	7	0.2
	合計	3,639	100.0

注）問2で①～④を選択した者のみ集計

注）総回答数に対する割合

【2年生】新設組織の受験希望の有無

新設組織の受験希望の有無

○八戸工業大学に先進工学部先進工学科が開設された場合の受験希望について、「第一志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,126 人の約 5.7%にあたる 122 人、「第二志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,126 人の約 0.7%にあたる 15 人、「第三志望以降として受験する」と回答した者が回答者数 2,126 人の約 2.4%にあたる 50 人、「受験しない」と回答した者が回答者数 2,126 人の約 90.6%にあたる 1,927 人となっている。

問5 新設組織の受験希望の有無

【設問】

八戸工業大学に「先進工学部 先進工学科」が開設された場合、受験を希望しますか。
次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	第一志望として受験する	122	5.7
2	第二志望として受験する	15	0.7
3	第三志望以降として受験する	50	2.4
4	受験しない	1,927	90.6
	未回答・不明	12	0.6
	合計	2,126	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

【2年生】新設組織に合格した場合の入学希望の有無

新設組織に合格した場合の入学希望の有無

○八戸工業大学の先進工学部先進工学科を受験して合格した場合の入学希望について、「入学する」と回答した者が回答者数 187 人の約 66.3%にあたる 124 人、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者が回答者数 187 人の約 29.9%にあたる 56 人、「入学しない」と回答した者が回答者数 187 人の約 3.7%にあたる 7 人となっている。

問6 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記設問で、①～③を選択した方に質問です。

八戸工業大学の「先進工学部 先進工学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	入学する	124	66.3
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	56	29.9
3	入学しない	7	3.7
	未回答・不明	0	0.0
	合計	187	100.0

注) 問5で①～③を選択した者のみ集計

【2年生】新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

○卒業後の進路を「大学」、進学を希望する場合の大学等の設置者を「私立」、興味のある学問分野を「機械工学（機械工学・交通機械学・ロボット工学）」、「電気通信工学（電子通信工学）」、「環境・エネルギー工学」、新設組織の受験希望を「第一志望として受験する」、新設組織に合格した場合の入学希望を「入学する」と回答した者は103人となっている。

回答者数 (合計)	問1 卒業後の進路	問2 進学希望の 大学設置者	問3 興味のある 学問分野	問4 新設組織の 受験希望有無	問5 合格した場合の 入学希望有無
3,083名	うち、	うち、	うち、	うち、	うち、
	①大学 1,644名 (53.3%)	③私立 613名 (37.3%)	⑥機械工学 (機械工学・ 交通機械学・ ロボット工 学) ⑦電気通信工 学(電子通信 工学) ⑨環境・エネ ルギー工学 のいずれかを 選択 161名 (26.3%) ※新設組織に該 当する学問分野 を選択した者の み記載	①第一希望と して受験する 103名 (64.0%)	①入学する 103名(100.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 0名(0.0%) ③入学しない 0名(0.0%)
				②第二希望と して受験する 0名 (0.0%)	①入学する 0名(0.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 0名(0.0%) ③入学しない 0名(0.0%)
				③第三希望と して受験する 6名 (3.7%)	①入学する 3名(50.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 3名(50.0%) ③入学しない 0名(0.0%)
				④受験しない	

※クロス集計の結果：入学見込者
103名

【資料5】

【1年生】卒業後の進路

卒業後の進路

○卒業後の進路について、「大学」と回答した者が総回答数 4,101 人の約 47.5%にあたる 1,947 人、「短期大学」と回答した者が総回答数 4,101 人の約 8.9%にあたる 364 人、「専門職大学」と回答した者が総回答数 4,101 人の約 6.0%にあたる 247 人、「専門職短期大学」と回答した者が総回答数 4,101 人の約 3.2%にあたる 132 人となっている。

問2 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学	1,947	47.5
2	短期大学	364	8.9
3	専門職大学	247	6.0
4	専門職短期大学	132	3.2
5	専門学校	576	14.0
6	就職	743	18.1
7	その他	86	2.1
	未回答・不明	6	0.1
	合計	4,101	100.0

注)総回答数に対する割合

【1年生】進学を希望する場合の大学等の設置者

進学を希望する場合の大学等の設置者

○進学を希望する場合の大学等の設置者について、「国立」と回答した者が総回答数 3,182 人の約 42.0%にあたる 1,338 人、「公立」と回答した者が総回答数 3,182 人の約 34.5%にあたる 1,098 人、「私立」と回答した者が総回答数 3,182 人の約 22.5%にあたる 716 人となっている。

問3 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

上記設問のうち、①～④を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	国立	1,338	42.0
2	公立	1,098	34.5
3	私立	716	22.5
	未回答・不明	30	0.9
	合計	3,182	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

注) 総回答数に対する割合

【1年生】興味のある学問分野

興味のある学問分野

○高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野について、新設組織に該当する学問分野である「機械工学（機械工学・交通機械学・ロボット工学）」と回答した者は総回答数 3,936 人の約 9.7%にあたる 382 人、「電気通信工学（電子通信工学）」と回答した者は総回答数 3,936 人の約 10.0%にあたる 395 人、「環境・エネルギー工学」と回答した者は総回答数 3,936 人の約 7.6%にあたる 300 人となっている。

問4 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	文学・史学・哲学等	198	5.0
2	法学・政治学	144	3.7
3	商学・経済学	265	6.7
4	社会学	102	2.6
5	数学・物理・化学・生物等	247	6.3
6	機械工学（機械工学・交通機械学・ロボット工学）	382	9.7
7	電気通信工学（電子通信工学）	395	10.0
8	土木建築工学	395	10.0
9	環境・エネルギー工学	300	7.6
10	農学・農芸化学等	80	2.0
11	医学・歯学等	181	4.6
12	薬学・看護等	228	5.8
13	家政学・食物学・住居学等	141	3.6
14	教育学	270	6.9
15	美術・デザイン・音楽等	373	9.5
16	その他	214	5.4
	未回答・不明	21	0.5
	合計	3,936	100.0

注）問2で①～④を選択した者のみ集計

注）総回答数に対する割合

【1年生】新設組織の受験希望の有無

新設組織の受験希望の有無

○八戸工業大学に先進工学部先進工学科が開設された場合の受験希望について、「第一志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,306 人の約 5.2%にあたる 120 人、「第二志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,306 人の約 1.9%にあたる 43 人、「第三志望以降として受験する」と回答した者が回答者数 2,306 人の約 4.1%にあたる 94 人、「受験しない」と回答した者が回答者数 2,306 人の約 87.7%にあたる 2,023 人となっている。

問5 新設組織の受験希望の有無

【設問】

八戸工業大学に「先進工学部 先進工学科」が開設された場合、受験を希望しますか。
次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	第一志望として受験する	120	5.2
2	第二志望として受験する	43	1.9
3	第三志望以降として受験する	94	4.1
4	受験しない	2,023	87.7
	未回答・不明	26	1.1
	合計	2,306	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

【1年生】新設組織に合格した場合の入学希望の有無

新設組織に合格した場合の入学希望の有無

○八戸工業大学の先進工学部先進工学科を受験して合格した場合の入学希望について、「入学する」と回答した者が回答者数 257 人の約 49.4%にあたる 127 人、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者が回答者数 257 人の約 47.5%にあたる 122 人、「入学しない」と回答した者が回答者数 257 人の約 2.7%にあたる 7 人となっている。

問6 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記設問で、①～③を選択した方に質問です。

八戸工業大学の「先進工学部 先進工学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	入学する	127	49.4
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	122	47.5
3	入学しない	7	2.7
	未回答・不明	1	0.4
	合計	257	100.0

注) 問5で①～③を選択した者のみ集計

【1年生】新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

○卒業後の進路を「大学」、進学を希望する場合の大学等の設置者を「私立」、興味のある学問分野を「機械工学（機械工学・交通機械学・ロボット工学）」、「電気通信工学（電子通信工学）」、「環境・エネルギー工学」、新設組織の受験希望を「第一志望として受験する」、新設組織に合格した場合の入学希望を「入学する」と回答した者は101人となっている。

回答者数 (合計)	問1 卒業後の進路	問2 進学希望の 大学設置者	問3 興味のある 学問分野	問4 新設組織の 受験希望有無	問5 合格した場合の 入学希望有無
	うち、	うち、	うち、	うち、	うち、
2,932 名	①大学 1,947 名 (66.4%)	③私立 608 名 (31.2%)	⑥機械工学 (機械工学・ 交通機械学・ ロボット工 学) ⑦電気通信工 学(電子通信 工学) ⑨環境・エネ ルギー工学 のいずれかを 選択 224 名 (36.8%) ※新設組織に該 当する学問分野 を選択した者の み記載	① 第一希望と して受験する 101 名 (45.1%)	①入学する 101 名 (100.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 0 名 (0.0%) ③入学しない 0 名 (0.0%)
				② 第二希望と して受験する 18 名 (8.0%)	①入学する 1 名 (5.6%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 17 名 (94.4%) ③入学しない 0 名 (0.0%)
				③ 第三希望と して受験する 8 名 (3.6%)	①入学する 4 名 (50.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 4 名 (50.0%) ③入学しない 0 名 (0.0%)
				④受験しない	

※クロス集計の結果：入学見込者
101 名

参考資料 進学需要調査関係

- 進学需要等に関するアンケート調査票
- 進学需要等に関するアンケート調査依頼先一覧
- 先進工学部 先進工学科 概要

【資料5】

八戸工業大学 先進工学部 先進工学科(仮称) 進学需要等に関するアンケート調査(高校生)

八戸工業大学では、基礎科学を工業生産に応用して、社会に役立つものを創造するための専門的な知識と実践的な能力を有した人材の養成にむけた教育研究体制の一層の充実を目指して、既設の工学部を発展的に改組し、新たに「先進工学部 先進工学科(仮称)」として設置することを検討しております。

このアンケート調査は、高校生の皆さんに、卒業後の進路等についてお聞きし、「先進工学部 先進工学科(仮称)」の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開したりすることはありません。

回答は、別紙のリーフレットをご覧ください。設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

別紙補足事項：先進工学部 先進工学科アドミッション・ポリシー

先進工学科は、情報リテラシーも含めた科学と工学分野におけるグリーン技術の基礎原理を踏まえ、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力、持続可能なグリーン社会の実現のためにグリーン IT・グリーンデバイスといった先進技術の導入や運用を推進していく能力、論理的・創造的思考力やコミュニケーション能力を身につけ、異なる分野の人とも協調して課題を発見・解決に、倫理的責任を持つてあたることができる人材の育成を目指しています。

先進工学科は、環境・エネルギー科学、食品化学工学、ロボット工学、モビリティ工学、機械工学、電気電子通信工学の6プログラムの教育体制を取っており、先進工学の目的ならびにそれぞれのプログラムの学びに強い関心があり、これらの能力を身につけて地域や社会で活躍したいという目標を持って主体的かつ自律的に取り組む人を受け入れます。

問1 学年

【回答欄】

【設問】

学年

【選択肢】

1 1年生

2 2年生

1	①	②
---	---	---

問2 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

【選択肢】

1 大学

2 短期大学

3 専門職大学

4 専門職短期大学

5 専門学校

6 就職

7 その他

2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
---	---	---	---	---	---	---	---

裏面に進んでください ⇒

【資料5】

問 3 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

上記設問のうち、1～4を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

3	①	②	③
---	---	---	---

【選択肢】

- 1 国立 2 公立 3 私立

問 4 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

(複数選択可)

4	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
---	---	---	---	---	---	---

【選択肢】

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1 文学・史学・哲学等 | 2 法学・政治学 |
| 3 商学・経済学 | 4 社会学 |
| 5 数学・物理・化学・生物等 | 6 機械工学(機械工学・交通機械学・ロボット工学) |
| 7 電気通信工学(電子通信工学) | 8 土木建築工学 |
| 9 環境・エネルギー工学 | 10 農学・農芸化学 |
| 11 医学・歯学等 | 12 薬学・看護学等 |
| 13 家政学・食物学・住居学等 | 14 教育学 |
| 15 美術・デザイン・音楽等 | 16 その他 |

問 5 新設組織の受験希望の有無

【設問】

八戸工業大学に「先進工学部 先進工学科」が開設された場合、受験を希望しますか。

次より一つ選択してください。

5	①	②	③	④
---	---	---	---	---

【選択肢】

- 1 第一志望として受験する 2 第二志望として受験する
3 第三志望以降として受験する 4 受験しない

問 6 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記設問で、1～3を選択した方に質問です。

八戸工業大学の「先進工学部 先進工学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

次より一つ選択してください。

6	①	②	③
---	---	---	---

【選択肢】

- 1 入学する 2 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
3 入学しない

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

【資料5】

進学需要に関するアンケート調査依頼先一覧

2年生

都道府県	高等学校名	住所
青森県	青森県立青森西高等学校	青森県青森市新城字平岡266-20
青森県	青森県立弘前高等学校	青森県弘前市新寺町1-1
青森県	青森県立弘前南高等学校	青森県弘前市大開4-1-1
青森県	青森県立八戸北高等学校	青森県八戸市大久保町道8-3
青森県	青森県立木造高等学校	青森県つがる市木造日向73-2
青森県	青森県立三本木高等学校	青森県十和田市西五番町7-1
青森県	青森県立三沢高等学校	青森県三沢市松園町1-1
青森県	青森県立大湊高等学校	青森県むつ市大湊字大近川44-84
青森県	青森県立弘前工業高等学校	青森県弘前市馬屋町6-2
青森県	青森県立八戸工業高等学校	青森県八戸市江陽1-2-27
青森県	青森県立十和田工業高等学校	青森県十和田市三本木字下平215-1
青森県	青森県立八戸西高等学校	青森県八戸市尻内町字中根市14
青森県	青森県立青森北高等学校	青森県青森市羽白字富田80-7
青森県	青森県立八戸中央高等学校	青森県八戸市諏訪1-2-17
青森県	青森県立黒石高等学校	青森県黒石市西ヶ丘65
青森県	青森県立五所川原工科高等学校	青森県五所川原市湊船越192
青森県	柴田学園大学附属柴田学園高等学校	青森県弘前市豊原1-2-1
青森県	八戸工業大学第一高等学校	青森県八戸市白銀町字右岩淵通7-10
青森県	五所川原第一高等学校	青森県五所川原市元町42
青森県	八戸工業大学第二高等学校	青森県八戸市妙字大開67
岩手県	岩手県立北上翔南高等学校	岩手県北上市相去町高前檀13
岩手県	岩手県立大東高等学校	岩手県一関市大東町摺沢字堀河ノ沢34-4
宮城県	宮城県石巻工業高等学校	宮城県石巻市貞山5-1-1
宮城県	宮城県石巻西高等学校	宮城県東松島市赤井字七反谷地27
宮城県	宮城県柴田高等学校	宮城県柴田郡柴田町大字本船迫字十八津入7-3
宮城県	東陵高等学校	宮城県気仙沼市大峠山1-1
秋田県	秋田県立鹿角高等学校	秋田県鹿角市花輪字明堂長根12
福島県	福島県立若松商業高等学校	福島県会津若松市米代1-3-31
福島県	福島県立いわき翠の杜高等学校	福島県いわき市内郷綴町板宮2番地

計29校

学生確保（資料5）

【資料5】

進学需要に関するアンケート調査依頼先一覧

1年生

都道府県	高等学校名	住所
青森県	青森県立青森西高等学校	青森県青森市新城字平岡266-20
青森県	青森県立弘前高等学校	青森県弘前市新寺町1-1
青森県	青森県立弘前南高等学校	青森県弘前市大開4-1-1
青森県	青森県立八戸北高等学校	青森県八戸市大久保町道8-3
青森県	青森県立木造高等学校	青森県つがる市木造日向73-2
青森県	青森県立三沢高等学校	青森県三沢市松園町1-1
青森県	青森県立大湊高等学校	青森県むつ市大湊字大近川44-84
青森県	青森県立弘前工業高等学校	青森県弘前市馬屋町6-2
青森県	青森県立八戸工業高等学校	青森県八戸市江陽1-2-27
青森県	青森県立十和田工業高等学校	青森県十和田市三本木字下平215-1
青森県	青森県立青森商業高等学校	青森県青森市戸山字安原7-1
青森県	青森県立三沢商業高等学校	青森県三沢市春日台2-154
青森県	青森県立八戸商業高等学校	青森県八戸市十日市字塚ノ下3-1
青森県	青森県立八戸西高等学校	青森県八戸市尻内町字中根市14
青森県	青森県立青森北高等学校	青森県青森市羽白字富田80-7
青森県	青森県立八戸中央高等学校	青森県八戸市諏訪1-2-17
青森県	青森県立黒石高等学校	青森県黒石市西ヶ丘65
青森県	青森県立五所川原工科高等学校	青森県五所川原市湊船越192
青森県	柴田学園大学附属柴田学園高等学校	青森県弘前市豊原1-2-1
青森県	八戸工業大学第一高等学校	青森県八戸市白銀町字右岩淵通7-10
青森県	五所川原第一高等学校	青森県五所川原市元町42
青森県	八戸工業大学第二高等学校	青森県八戸市妙字大開67
岩手県	岩手県立大東高等学校	岩手県一関市大東町摺沢字堀河ノ沢34-4
宮城県	宮城県石巻高等学校	宮城県石巻市大手町3-15
宮城県	宮城県石巻工業高等学校	宮城県石巻市貞山5-1-1
宮城県	宮城県石巻西高等学校	宮城県東松島市赤井字七反谷地27
宮城県	宮城県柴田高等学校	宮城県柴田郡柴田町大字本船迫字十八津入7-3
山形県	山形県立米沢東高等学校	山形県米沢市丸の内2-5-63
山形県	酒田南高等学校	山形県酒田市浜田1-3-47
福島県	福島県立若松商業高等学校	福島県会津若松市米代1-3-31
福島県	福島県立いわき翠の杜高等学校	福島県いわき市内郷綴町板宮2番地

計31校

学生確保（資料5）

【資料5】

八戸工業大学 先進工学部 先進工学科（設置構想中）概要 【令和9（2027）年4月 開設予定】

○学部等の概要

- ・学部学科：先進工学部 先進工学科（男女共学）
学位：学士（工学）、学位の分野：工学関係
- ・学生定員：入学定員100名／収容定員400名
- ・開設時期：令和9（2027）年4月
- ・設置場所：八戸市大字妙字大開88番地1号
- ・アクセス：JR 東北新幹線「八戸駅」から JR 八戸線に乗り換え「本八戸駅」下車、「本八戸駅」より大学までバスで約35分、タクシーで約20分
JR 東北新幹線「八戸駅」からタクシーで大学直行約30分

○教育研究上の理念・目的

総合教養、数理・データサイエンス・AI 及びカーボンニュートラルも含めた自然科学の基礎を習得する。そして、地域社会との繋がりを重視した共創教育を通じて専門分野の基盤となる素養を身につける。さらに、環境・エネルギー科学、食品化学工学、ロボット工学、モビリティ工学、機械工学及び電気電子通信工学のいずれかの専門知識を身につけるとともに、幅広い科目群の学習により、工学分野における先進技術の基本的な知識と応用・展開力を身につけ、持続可能な循環型社会の構築に資することを教育研究上の目的とする。

○学びの特徴

総合教養と多面的な視野、デザイン思考や自然科学等の専門分野の基盤となる基礎知識、社会人・職業人として必要なコミュニケーション能力を身につけるとともに、北東北地域の自然・社会・産業とこれに係わる科学技術への関心を深める。そして、環境・エネルギー科学、食品化学工学、ロボット工学、モビリティ工学、機械工学及び電気電子通信工学のいずれかの専門分野において応用展開能力を習得し、グリーン技術を活用して社会の持続可能な発展に貢献できる素養を身につける。

○育成する人材像

情報リテラシーも含めた科学と工学分野におけるグリーン技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、持続可能なグリーン社会の実現のためにグリーン IT・グリーンデバイスといった先進技術の導入や運用を推進していく人材を養成する。

○想定される卒業後の進路

製造業（金属、紙、食品、自動車、精密機械、工作機械、電子デバイス、半導体、電機メーカー等）、電力・原子力関連産業、エネルギー関連企業、産業用ロボット、運搬機械、医療・福祉機器、自動車関連産業、自動車行政、機械設計・製造分野、通信設備、公務員・教員等を目指し、北東北を中心とした地域社会の発展に貢献する。

○学生納付金（納付金は予定金額のため、変更となる可能性があります。）

初年度納付金 1,543,000 円（入学金 250,000 円 授業料等 1,272,000 円 入学検定料 30,000 円他）

○同系統の学びのある大学・学部・学科・課程

- ・東北工業大学
工学部 電気電子工学課程・情報通信工学課程・都市工学課程・環境応用化学課程
建築学部 建築学科
ライフデザイン学部 産業デザイン学科・生活デザイン学科・経営デザイン学科
- ・東北学院大学
工学部 機械知能工学科・電気電子工学科・環境建設工学科

学生確保（資料5）

八戸工業大学
「先進工学部 先進工学科」(仮称)
人材需要等に関するアンケート調査
結果報告書
【関連企業等対象調査】

令和 8 年 3 月
株式会社システム環境研究所

調査概要

調査目的

令和9年4月開設予定の八戸工業大学「先進工学部 先進工学科（仮称）」の設置構想に関して、関連企業等からの人材需要を把握する。

調査概要

- 調査対象：求人実績や採用実績のある関連企業等
- 調査地域：青森県、北海道、岩手県、秋田県、宮城県、栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、静岡県、新潟県、長野県、愛知県、京都府、大阪府、岐阜県、香川県
- 調査方法：オンラインによる調査
- 調査時期：令和7年12月～令和8年1月
- 依頼件数：317件
- 回答件数：129件

調査項目

- 所在地
- 人材の採用見込み
- 養成する人材の必要性
- 卒業生の採用
- 卒業生の採用人数

【資料6】

所在地

所在地

○所在地について、「青森県」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 46.5%にあたる 60 件、「東京都」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 24.8%にあたる 32 件、「その他」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 28.7%にあたる 37 件となっている。

1. 所在地

【設問】

貴社の所在地について、お尋ねいたします。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	青森県	60	46.5
2	東京都	32	24.8
3	その他	37	28.7
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

人材の採用見込み

人材の採用採用見込み

○人材の採用見込みについて、「増加すると思う」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 75.2%にあたる 97 件、「増加すると思わない」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 24.8%にあたる 32 件となっている。

2. 人材の採用見込み

【設問】

今後の貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	増加すると思う	97	75.2
2	増加すると思わない	32	24.8
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

養成する人材の必要性

養成する人材の必要性

○八戸工業大学の先進工学部先進工学科で養成する人材について、「必要性を感じる」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 98.4%にあたる 127 件、「必要性を感じない」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 1.6%にあたる 2 件となっている。

3. 養成する人材の必要性

【設問】

八戸工業大学の養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

先進工学部先進工学科

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	必要性を感じる	127	98.4
2	必要性を感じない	2	1.6
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

卒業生の採用

卒業生の採用

○八戸工業大学の先進工学部先進工学科で学んだ卒業生の採用について、「採用したいと思う」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 88.4%にあたる 114 件、「採用したいと思わない」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 11.6%にあたる 15 件となっている。

4. 卒業生の採用

【設問】

八戸工業大学で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

先進工学部先進工学科

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	採用したいと思う	114	88.4
2	採用したいと思わない	15	11.6
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

卒業生の採用人数の見込み

卒業生の採用人数の見込み

○八戸工業大学の先進工学部先進工学科で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、「1人」と回答した企業等が回答件数 114 件の約 19.3%にあたる 22 件、「2人」と回答した企業等が回答件数 114 件の約 10.5%にあたる 12 件、「3人以上」と回答した企業等が回答件数 114 件の約 14.0%にあたる 16 件、「人数は未定」と回答した企業等が回答件数 114 件の約 56.1%にあたる 64 件となっている。

5. 卒業生の採用人数の見込み

【設問】

八戸工業大学で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。

先進工学部先進工学科

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	1人	22	19.3
2	2人	12	10.5
3	3人以上	16	14.0
4	人数は未定	64	56.1
	未回答・不明	0	0.0
	合計	114	100.0

卒業生の採用人数の見込み(クロス集計)

卒業生の採用人数の見込み(クロス集計)

○新設組織の養成する人材を「必要性を感じる」、新設組織で学んだ卒業生の採用を「採用したいと思う」、新設組織で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みを「1人」、「2人」、「3人以上」、「人数は未定」と回答した企業等は114件となっている。

なお、採用人数を「3人以上」と回答した採用人数を「3人」、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると158人となる。

No.	カテゴリ	件数／件	人数／人
1	必要性を感じる×採用したいと思う×1人	22	22
2	必要性を感じる×採用したいと思う×2人	12	24
3	必要性を感じる×採用したいと思う×3人	16	48
4	必要性を感じる×採用したいと思う×人数は未定	64	64
	合計	114	158

参考資料 人材需要調査関係

- 人材需要等に関するアンケート調査票
- 人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧
- 学部学科紹介リーフレット

【資料6】

八戸工業大学 設置構想中の学部における 人材需要等に関する アンケート調査

対象：人事採用担当者様

※アンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用いることとして
おり、個別の回答内容について公開したりすることはありません。

回答する

貴社の所在地について、お尋ねいたします。

【必ず回答】

☐ 青森県

☐ 東京都

☐ その他（具体的に）

今後の貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

【必ず回答】

☐ 増加と思う

☐ 増加と思わない

■以降の質問は、適宜、学部学科紹介リーフレットを参照しながら、お答えください。
別画面でリーフレットが開きます。

→ [リーフレットを閲覧](#)

【資料6】

八戸工業大学の養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

【必ず回答】

総合情報学部総合情報学科

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

先進工学部先進工学科

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

デザイン工学部デザイン工学科

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

八戸工業大学で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

【必ず回答】

総合情報学部総合情報学科

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

先進工学部先進工学科

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

デザイン工学部デザイン工学科

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

【資料6】

八戸工業大学で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。

【必ず回答】

総合情報学部総合情報学科

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定
- ☐ 採用したいと思わない

先進工学部先進工学科

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定
- ☐ 採用したいと思わない

デザイン工学部デザイン工学科

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定
- ☐ 採用したいと思わない

【資料6】

八戸工業大学に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください。
先進工学部先進工学科

0文字

総合情報学部総合情報学科

0文字

デザイン工学部デザイン工学科

0文字

送信

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

No.	企 業 等 名 称	No.	企 業 等 名 称
1	岩田地崎建設(株)	51	(株)ビー・エム
2	北海道旅客鉄道(株)	52	アルバック東北(株)
3	(株)ツルハ	53	(株)大山建工
4	ハコレコドットコム(株)	54	東北医療福祉事業協同組合(SGグループ)
5	日本原燃(株)	55	富士電機津軽セミコンダクタ(株)
6	(株)サンデー	56	(株)七洋
7	(株)青森芝浦電子	57	(株)中野グループ
8	青森日揮プランテック(株)	58	(株)ユニバース
9	(株)ジェイテック	59	(株)河原木電業
10	六ヶ所エンジニアリング(株)	60	(株)丸大サクラ井薬局
11	田中建設(株)	61	日本原燃分析(株)
12	プライフーズ(株)	62	(株)青森クリエイト
13	東和電機工業(株)	63	丸喜(株)齋藤組
14	(株)ムジコ・クリエイト	64	(株)吉田産業
15	(株)ハチカン	65	東北化学薬品(株)
16	日本フードパッカー(株)	66	広和計装(株)
17	(株)ササキコーポレーション	67	(株)鹿内組
18	トヨタカローラ八戸(株)	68	弘前航空電子(株)
19	(株)高橋製作所	69	(株)ヘリテージホーム
20	(株)石上建設	70	紅屋商事(株)
21	青い森信用金庫	71	(株)松本工務店
22	穂積建設工業(株)	72	レガロホーム(株)
23	(株)サンライズ・エー・イー	73	環境保全(株)
24	(株)石川設計	74	(株)セインハイテック
25	日本ホワイトファーム(株)	75	青森県信用組合
26	(株)藤本建設	76	(株)齋藤建設
27	(株)福萬組	77	青森オリンパス(株)
28	(株)八洲建築設計事務所	78	(株)アイティコワーク
29	高周波鑄造(株)	79	(株)ライフスタイルカンパニー
30	(株)ザックス	80	小幡建設工業(株)
31	(株)IGAメックス	81	青森リバーテクノ(株)
32	太子食品工業(株)	82	(株)角弘
33	(株)サン・コンピュータ	83	(株)デーリー東北新聞社
34	(株)大進建設	84	(株)プロクレアホールディングス
35	八戸缶詰(株)	85	(株)テクノル
36	(株)田中組	86	生活協同組合コープあおもり
37	青森トヨタ自動車(株)	87	(株)吉田管財
38	(株)田名部組	88	青森トヨペット(株)
39	大平洋金属(株)	89	(株)といず不動産
40	(株)柏崎組	90	(株)ホクエツ東北
41	八戸液化ガス(株)	91	(株)コサカ技研
42	(株)青森電子計算センター	92	(株)中綱組
43	寺下建設(株)	93	八戸通運(株)
44	(株)RABサービス	94	(株)金入
45	(株)第一ホーム	95	八戸ガス(株)
46	(株)共同物流サービス アイティークレスト事業部	96	タナカホーム(株)
47	(株)マエダ	97	マルヨ水産(株)
48	(株)サンライズエンジニアリング	98	上北建設(株)
49	三八五流通(株)	99	(株)大坂組
50	アール・エー・ビー開発(株)	100	(株)ハシモトホーム

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

No.	企 業 等 名 称	No.	企 業 等 名 称
101	青森マツダ自動車(株)	151	東北発電工業(株)
102	階上キューピー(株)	152	仙建工業(株)
103	(株)ほくとう	153	東北電力(株)
104	環境技術(株)	154	(株)日立ソリューションズ東日本
105	青森朝日放送	155	ホシザキ東北(株)
106	青森宝栄工業(株)	156	トヨタ自動車東日本(株)
107	東北グリーンターミナル(株)	157	古川電気工業(株)
108	(株)エービッツ	158	(株)ホクエツ
109	(株)ビジネスサービス	159	大和電設工業(株)
110	(株)八戸テレビ放送	160	株式会社ダンロップタイヤ 東北カンパニー
111	アンデス電気(株)	161	Astemo仙台(株)
112	武輪水産(株)	162	(株)阿部長商店
113	エプソンアトミックス(株)	163	みちのくコンサルタント(株)
114	北日本計装(株)	164	(株)ホンダテクノフォート
115	株式会社ライトカフェU.	165	栃木セキスイハイム(株)
116	宮城建設(株)	166	(株)アセンド
117	(株)平野組	167	検査開発(株)
118	(株)タカヤ	168	(株)日立パワーソリューションズ
119	樋下建設(株)	169	(株)NESI
120	(株)ニュートン	170	(株)ナカヨ
121	イワフジ工業(株)	171	UDトラックス(株)
122	(公財)岩手県下水道公社	172	(株)前澤エンジニアリングサービス
123	盛岡セイコー工業(株)	173	(株)温泉道場
124	(株)IBCソフトアルファ	174	川口土木建築工業(株)
125	北良(株)	175	(株)宝幸
126	(株)アイシーエス	176	美和電気工業(株)
127	(株)めんこいメディアブレーション	177	(株)ワイ・デー・ケー
128	(株)佐々木組	178	SGモータース(株)
129	(株)中館建設	179	グローブシップ(株)
130	キオクシア岩手(株)	180	(独)自動車技術総合機構
131	高惣建設(株)	181	(株)ミライト・ワン
132	(株)岩本電機	182	(株)メイテックフィルダーズ
133	花巻温泉(株)	183	(株)不動テトラ
134	(株)十文字チキンカンパニー	184	建装工業(株)
135	(株)小原建設	185	三菱電機プラントエンジニアリング(株)
136	川口印刷工業(株)	186	りんかい日産建設(株)
137	日本住宅(株)	187	東日本旅客鉄道(株)
138	白石食品工業(株)	188	マルゼン工業(株)
139	いわて生活協同組合	189	(株)BREXA Technology
140	イオン東北(株)	190	タキゲン製造(株)
141	小坂製錬(株)	191	(株)エス・エヌ・シー
142	(株)菅与組	192	(株)エヌ・ティ・ティエムイー
143	(株)宮腰デジタルシステムズ	193	山九プラントテクノ(株)
144	秋田印刷製本(株)	194	日本電設工業(株)
145	(株)日情秋田システムズ	195	(株)アビリカ
146	羽後設備(株)	196	岡三リビック(株)
147	宮腰精機(株)	197	(株)NTT東日本ー南関東
148	(株)TTK	198	日本道路(株)
149	(株)ユアテック	199	前田道路(株)
150	(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	200	エス・イー・シーエレベーター(株)

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

No.	企 業 等 名 称	No.	企 業 等 名 称
201	(株)きんでん	251	(株)ライトカフェ
202	(株)エイジェック	252	(株)ディックソリューションエンジニアリング
203	佐藤工業(株)	253	東京水道(株)
204	(株)レソリューション	254	(株)一条工務店
205	日鉄テックスエンジ(株)	255	(株)関電工
206	(株)アーネストワン	256	(株)丸藤シートパイル
207	ニューロン工業(株)	257	(株)LIXIL
208	東京鉄鋼(株)	258	山崎製パン(株)
209	サクサ(株)	259	(株)弘電社
210	(株)フォリウム	260	昭和アステック(株)
211	UTグループ(株)	261	新日本空調(株)
212	西松建設(株)	262	(株)村上商会
213	(株)ライテック	263	東芝システムテクノロジー(株)
214	内外施設工業(株)	264	(株)日本マイクロリンク
215	(株)テクノ菱和	265	(株)ネクスコ東日本エンジニアリング
216	(株)J-POWERハイテック	266	(株)来住野工務店
217	三和電子(株)	267	日立Astemo(株)
218	パーソルクロステクノロジー(株)	268	(株)アディスミューズ
219	マネックス証券(株)	269	合同酒精(株)
220	東光電気工事(株)	270	青木あすなろ建設(株)
221	(株)大泉製作所	271	三菱ケミカル物流(株)
222	リコージャパン(株)	272	(株)ウィルオブ・コンストラクション
223	(株)ビクソン	273	住友林業(株)
224	東京パワーテクノロジー(株)	274	松井建設(株)
225	(株)熊谷組	275	川崎圧延(株)
226	(株)HEXELWorks	276	前田建設工業(株)
227	長谷川体育施設(株)	277	ALSOK(株)
228	(株)フォーラムエンジニアリング	278	大林道路(株)
229	(株)日本ハウスホールディングス	279	(株)JFEプラントエンジ
230	(株)竹中土木	280	鉄建建設(株)
231	SUBARUテクノ(株)	281	エヌエス環境(株)
232	三菱電機ビルソリューションズ(株)	282	東テク(株)
233	(株)エス・イー・シー・ハイテック	283	キヤノンITソリューションズ(株)
234	(株)ジェイテック	284	キューピータマゴ(株)
235	渡辺パイプ(株)	285	東京電力ホールディングス(株)
236	セコム(株)	286	グローブライド(株)
237	REGAIN GROUP(株)	287	コマツカスタマーサポート(株)
238	東日本電気エンジニアリング(株)	288	ナビオコンピュータ(株)
239	東洋システム開発(株)	289	J-POWERジェネレーションサービス(株)
240	櫻井工業(株)	290	(株)NIPPO
241	ニチレキ(株)	291	日本データスキル(株)
242	太平電業(株)	292	(株)アルトナー
243	TDK(株)	293	富士電機E&C(株)
244	飛島建設(株)	294	大蔵工業(株)
245	五洋建設(株)	295	(株)ツガワ
246	日本国土開発(株)	296	ハル・エンジニアリング(株)
247	(株)ホーク・ワン	297	桜総業(株)
248	若築建設(株)	298	スズキ(株)
249	(株)メンバーズ	299	(株)コメリ
250	清水建設(株)	300	(株)NS・コンピュータサービス

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

[illegible]

学生確保⁴（資料6）

総合情報学部 総合情報学科

先進工学部 先進工学科

デザイン工学部 デザイン工学科

仮称 | 設置構想中 |

※設置計画は予定であり、変更する場合があります

○ACCESS

- JR東北新幹線「八戸駅」からJR八戸線に乗り換え「本八戸駅」下車。
「本八戸駅」より大学までバスで約35分、タクシーで約20分。
- JR東北新幹線「八戸駅」よりタクシーで大学直行約30分。

新幹線（最短乗車時間）

- 東京駅～八戸駅 2時間44分
- 盛岡駅～八戸駅 27分
- 仙台駅～八戸駅 1時間9分
- 新青森駅～八戸駅 23分
- 新青森駅～八戸駅 23分

バス（本八戸駅から大学まで約35分）

- 八戸市営バス
・本八戸駅から「工業大学」行き、または「八戸学院大学」行きに乗車、「工業大学前」下車。
・「八戸中心街ターミナル（八日町）」から「工業大学」行き、または「八戸学院大学」行きに乗車、「工業大学前」下車。
- 南部バス
本八戸駅から「随上（はしかみ）中学校前」行き、または「随上庁舎前」行き「工業大学前」で下車。
※八戸市営バス、南部バスどちらも八戸駅から八戸中心街間シャトルバス多数運行。八戸中心街まで所要時間約30分。

自家用車（八戸南IC下車3分）

- 八戸駅～八戸工業大学 約30分
- 本八戸駅～八戸工業大学 約20分

飛行機

- 羽田～三沢 1時間15分
 - 札幌丘珠～三沢 1時間
 - 伊丹～三沢 1時間30分
- ※三沢空港から八戸中心街までは空港連絡バスをご利用ください。

フェリー（最短乗船時間）

- 苫小牧～八戸港 7時間30分
- ※八戸港からJR本八戸駅までの交通手段は、シルバーフェリー・ホームページ 等でご確認ください。

○学生納付金

項 目	総合情報学部／先進工学部／デザイン工学部
入学検定料	30,000円
入学金	250,000円
学費（授業料等）	1,272,000円
委託費（保護者後援会費等）	21,000円
初年度納付金	1,543,000円
2年次以降納付金（学費、委託費）	1,328,000円

※納付金は予定金額のため、変更となる可能性があります。

○同系統の学びのある大学・学部・学科・課程

- 東北学院大学
工 学 部／機械知能工学科・電気電子工学科・環境建設工学科
- 東北工業大学
工 学 部／電気電子工学課程・情報通信工学課程・都市工学課程・環境応用化学課程
建 築 学 部／建築学科
ライフデザイン学部／産業デザイン学科・生活デザイン学科・経営デザイン学科



HIT

HACHINOHE INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2027.4 UPDATE!

2027年4月、八戸工業大学は3学部3学科へ※

本学では、現在の2学部2学科5コースから、3学部3学科体制へのアップデートを構想しています。本学のビジョンである「工学×デザイン×地域」を高度に進化・深化させ、これからの社会に求められるグリーン分野とデジタル分野を強化した新たな学部・学科へ再構築。さらに、社会課題解決に必須な「デザイン思考」の習得にも力を入れ、文系・理系といった既存の考え方にとらわれることなく、この国の、この地球の「ミライを創る力」を持った人材を養成します。

※2027年4月開設予定 | 設置構想中 | 設置計画は予定であり、変更する場合があります

ミライをつくる知性を学ぶ

総合情報学部

〔総合情報学科〕
(定員100名)



育成をめざす人材像

情報科学やメディア情報等の幅広いデジタル技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、高度なデジタル社会を構築・推進するために必要な新たな価値や技術を創造し実装することができる人材を養成します。

ミライを変える技術を学ぶ

先進工学部

〔先進工学科〕
(定員100名)



育成をめざす人材像

情報リテラシーも含めた科学と工学分野におけるグリーン技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、持続可能なグリーン社会の実現のためにグリーンIT・グリーンデバイスといった先進技術の導入と運用を推進していく人材を養成します。

ミライを描くセンスを学ぶ

デザイン工学部

〔デザイン工学科〕
(定員100名)



育成をめざす人材像

地域づくり分野におけるデザイン活動の基礎となる知識と技術、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、地域の暮らしの豊かさや多様なあるべき姿を構想する力を有し、地域社会における資源と資産・インフラの価値化と共有の実現に携わることができる人材を養成します。



